シテ執行ヲ免カルヽコトヲ債務者ニ許サヽルトキニ限ル

第七百二十一條　金銀ノ物件ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其競落ヲ許ス競買ヲ爲サヽルトキハ執達吏ハ其金銀ノ實價ニ達スル代價ヲ以テ自由ニ賣却スルコトヲ得

第七百二十二條　差押ヘタル有價證券カ取引所又ハ市場ノ相場ヲ有スルトキハ執達吏ハ其日ノ相場ヲ以テ自由ニ賣却シ其相場ヲ有セサルトキハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ競賣ス

第七百二十三條　記名證券ナルトキハ執達吏ハ執行裁判所ヲシテ(自己ニ)買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スノ權ヲ執達吏ニ與フルヿヲ得

第五百八十一條　執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條　有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スノ權ヲ執達吏ニ與フルヿヲ得

ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルヿヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條　金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルヿヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルヿヲ得

書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スノ權ヲ執達吏ニ與フルヿヲ得

第七百二十四條　無記名證券カ氏名ノ記入又ハ其他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルトキハ執達吏ハ執行裁判所ヲシテ(自己ニ)其流通ヲ回復セシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲スノ授權ヲ爲サシムルヿヲ得

第七百二十五條　未タ土地ヨリ離レサル差押果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スヿヲ許ス競賣ハ果實ノ分離前又ハ後ニ之ヲ爲スヿヲ得其分離後ノ場合ニ於テハ執達吏ハ其收獲ヲ爲サシムル

第五百八十四條　土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スヿヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムルノ權利アリ

差押ヘタル穫ノ競賣ハ全ク醸ト爲リタル後

第七百二十六條　債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ差押ヘタル物件ノ賣却ヲ前諸條ニ定メタル以外ノ方法又ハ場所ニ於テ爲ス可キコト又ハ競賣ヲ執達吏以外ノ者ニ爲サシム可キコトヲ命スルコトヲ得

第七百二十七條　既ニ差押ヘタル物件ノ差押ハ執達吏其委任者ノ爲メニ其物件ヲ差押フルコトヲ調書ニ記載シテ之ヲ爲ス

最初ノ差押ヲ他ノ執達吏カ爲シタルトキハ之ニ調書ノ謄本ヲ送達ス

債務者ニハ再度ノ差押ヲ通知ス

第七百二十八條　執行裁判所カ關係アル債權者一人又ハ債務者ノ申立ニ因リ最初差押ヲ始メテ之ヲ爲スヿヲ許ス

第五百八十五條　差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルヿヲ得

第五百八十六條　執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スヿヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閲覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ來タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キヿヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス（獨、七二八第一項參照）

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條　前條ニ揭ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ効力ヲ生ス

第五百八十八條　適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間內ニ競賣ヲ爲ス可キヿヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ相當ノ命令アランヿヲ執行裁判所ニ申請スルヿヲ得

第五百八十九條　民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルヿヲ得

第五百九十條　前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條　第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノアリタルヿヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ

債務者カ認諾セサルヿヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間內ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條　配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スヿヲ得

第五百九十三條　賣得金ヲ以テ配當ニ與カル

第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行

第七百二十九條　債權及ヒ他ノ財產權ヲ目的トスル强制執行ニ付テノ裁判上ノ行爲ハ執行裁判所之ヲ爲ス

各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其情況ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可ク其屆書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ（獨、七二八第二項）

第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行

第五百九十四條　第三者（第三債務者）ニ對スル債務者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ債務者カ獨逸國內ニ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所又ハ其裁判所ナキトキハ第二十四條ニ從ヒ債務者ニ對シ訴ヲ起スコトヲ得ル區裁判所カ執行裁判所トシテ管轄權ヲ有ス（日、五九五）

（第七百三十五條）　差押ヲ爲ス前其差押ノ申請ニ付キ債務者ヲ審訊セス

目的トスルモノノ强制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條　執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス（獨、七二九）

第五百九十六條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押ヲ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得

第五百九十七條　差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第七百三十條　金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂フコトヲ禁ス同時ニ裁判所ハ債務者ニ對シ債權ノ各處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ス

債權者ハ決定ヲ第三債務者ニ送達セシム執達吏ハ公示送達ヲ要セサルトキニ限リ其決定ト送達證書ノ謄本トヲ債務者ニ即時送達ス第三債務者ニ爲ス送達ヲ裁判所書記ノ直接ノ嘱託ニ依リ郵便局ニ於テ爲シタルトキハ裁判所書記ハ債務者ニ爲ス送達ニ付テモ亦同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス外國ニ於テ債務者ニ爲スヘキ送達ハ郵便局ニ嘱託シテ爲ス送達ヲ以テ之ニ換フ（日、五九八第二項參照）

差押ハ第三債務者ニ爲ス決定ノ送達ト共ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百三十一條　債權ノ差押ヲ書入質帳ニ登記スル程度及ヒ其登記ヲ爲ス方法ハ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ム

（第七百三十六條）差押ヘタル金錢ノ債權ハ債權者ノ撰擇ニ從ヒ現金取立ノ爲メ又ハ代物

第五百九十八條　金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スヿヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルヿヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ（獨、七三〇第二項參照）

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲ヲシルモノト看做ス

第五百九十九條　抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記籍ニ記入スルノ權利アリ

此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルヿヲ得」

裁判所ハ義務ヲ負フタル不動產ノ所有者（第三債務者）ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

第六百條　差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セス

辨濟トシテ券面額ニテ之ニ轉付ス

此終リノ場合ニ於テ債權ハ債權者ニ移轉シ債權者ハ其債權ノ存スル部分ニ限リ債務者ニ對スル債權ニ付キ辨濟ヲ受ケタルモノト看做スノ効力ヲ生ス（日、六〇一）

第七百三十條　第二項ノ規定ハ之ヲ準用ス

シテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アランヿヲ申請スルヿヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條　支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スルノ命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第六百二條　取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及ブモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スヿヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スヿヲ得ス

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

第六百三條　爲替證券其他裏書ヲ以テ移轉スルヿヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條　俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及ブモノトス

第六百五條　職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ增俸ニ因ル收入ニモ亦及ブモノトス

第七百三十二條　手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヨリ生スル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第七百三十三條　俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ニ依テ得ル質權ハ差押後要求期限ノ來リタル金額ニモ及ブ

第七百三十四條　職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉職兼任又ハ增俸ニ因リ受取ルヘキ收入ニモ及ブ

此規定ハ授職者ノ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第七百三十五條　（日、第五百九十七條ニ對比ス）

第七百三十六條　（日、第六百條及ヒ第六百一條ニ對比ス）

第七百三十七條　其轉付ハ民法ノ規定ニ從ヒ債權ヲ取立ツル權利ノ定マル債務者ノ法式上ノ陳述ニ代ハル

債務者ハ債權ニ付テ存スル證書ヲ債權者ニ引渡ス義務アリ其引渡ハ債權者强制執行ヲ以テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第七百三十八條　第六百五十二條第二項ニ從ヒテ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ强制執行ヲ免ルヽコトヲ債務者ニ許シタルトキハ差押ヘタル金錢債權ノ移付ハ現金取立ノ爲メニシテ第三債務者カ債務額ヲ供託スル效力ヲ以テノミ之ヲ許ス

第七百三十九條　債權者ノ求メニ依リ第三債務者ハ差押決定ノ達送ヨリ起算シ二週內ニ債權者ニ左ノ陳述ヲ爲ス

第一　第三債務者ハ債權ヲ理由アリトシテ認諾シ及ヒ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ限度

第二　債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求ノ有無及ヒ種類

第六百六條　債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡スノ義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ强制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルヿヲ得

第六百七條　第五百五條第二項ニ從ヒ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルヿヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムルノ効力ノミヲ有ス

第六百八條　債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可シ

第六百九條　差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間內ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンヿヲ裁判所ニ申立ツルヿヲ得

第一　債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二　債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

第三　債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載スルコトヲ要ス第三債務者ハ其義務ヲ盡サヽルニ因リ生スル損害ニ付キ債權者ニ對シ其責ニ任ス

第三債務者ノ陳述ハ差押決定ヲ送達スル際又ハ第一項ニ定メタル期間內ニ執達吏ニ之ヲ爲スコトヲ得最初ノ場合ニ於テハ其陳述ヲ送達證書ニ記載シ且第三債務者之レニ署名ス

第七百四十條　債權者ニ付キ出訴スル債權者ハ債務者ニ裁判上訴訟ヲ告知スル義務アリ但外國ニ於テスル達送又ハ公示送達ヲ要セサルトキニ限ル

第七百四十一條　取立ノ爲メ移付セラレタル債權ノ取立ヲ怠ル債權者ハ債務者ニ對シ之ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第七百四十二條　債權者ハ其請求ヲ害セラルヽコトナクシテ差押及ヒ取立ノ爲メニスル移付ニ依リ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得其拋棄ハ債務者ニ送達スヘキ陳述書ヲ以テ之ヲ爲ス其陳述書ハ第三債務者ニモ亦之ヲ送達ス

第七百四十三條　差押ヘタル債權カ條件附若シハ有期ナルトキ又ハ其取立カ反對給付ニ繫ルトキ若シハ他ノ理由ニ依リ其取立ノ困

第三　債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムルノ催告ハ之ヲ送達證書ニ記載スヘシ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因テ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條　債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者內國ニ在テ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條　債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條　債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルヿヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルヿ無シ

此拋棄ハ裁判所ニ屆書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條　差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所

難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ移付ニ代ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコト得

申立ヲ許ス決定前ニ相手方ヲ訊問ス但外國ニ於テ爲ス送達又ハ公示送達ヲ要セサルトキニ限ル

第七百四十四條　差押前既ニ債權者カ執行力アル債務名義ニ基キ執達吏ヲシテ第三債務者ニ對シテハ債務者ニ支拂ヲ爲ス可カラサルコトノ催告債務者ニ對シテハ催告ニ付テノ各處分殊ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトノ催告ト共ニ差押ヲ爲スノ通知ヲ第三債務者及債權者ニ送達セシムルコトヲ得

第三債務者ニ爲ス通知ハ債權ノ差押ヲ三週内ニ爲ストキニ限リ假差押〔第八百十條〕ノ効力ヲ有ス其期限ハ通知書ヲ送達シタル日ヲ以テ始マル

第七百四十五條　有体物ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル請求ニ對スル强制執行ハ以下數條ヲ斟酌シテ第七百三十條乃至第七百四十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七百四十六條　有体動産ニ關スル請求ノ差押ニ付テハ其物件ヲ債權者ノ委任スル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス

右物件ノ換價ニ付テハ差押ヘタル物件ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第七百四十七條　不動産ニ關スル請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其物件所在地ノ區裁判所ヨリ命スル保管人ニ其物件ヲ引

ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルヿヲ得

債務者内國ニ在テ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條　有對物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル强制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六百十五條　有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キヿヲ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十六條　不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス

渡ス可キコトヲ命ス

引渡シタル物件ニ對スル强制執行ハ不動産ニ對スル强制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百四十八條　辨濟ノ代リトシテ第七百四十五條ニ記載シタル請求ヲ移付スルコトハ之ヲ許サス

第七百四十九條　左ニ揭ルモノハ之ヲ差押ヘス

第一　千八百六十九年六月二十一日ノ獨逸法律〔千八百六十九年ノ獨逸法律誌第二百四十二葉及ヒ千八百七十一年ノ同法律誌第六十三葉〕ノ規定ニ從フヘキ勞役賃及雇賃

第二　法律上ノ規定ニ基ク養料ノ債權

第三　債務者カ義捐建設所ヨリ受取リ又ハ第三者ノ救恤及ヒ施與ニ依リ受クル經續ノ收入但債務者カ自己其婦及ヒ未タ生計ノ資料ナキ子女ニ必要ナル生計費ヲ支辨スル爲メ其收入ヲ要スルトキニ限ル

第四　疾病貯金所、救助貯金所又ハ死亡貯金所殊ニ鑛業職工貯金所及ヒ鑛業職工組合貯金所ヨリ受取ル可キ收入

第五　下士及ヒ兵卒ノ給料及ヒ老兵恩給

第六　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上ノ收入

可キヿヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ强制執行ハ不動産ニ對スル强制執行ニ付テノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス

第六百十七條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スルノ命令ヲ爲スヿヲ得ス

第六百十八條　左ニ揭クル債權ハ之ヲ差押フルヿヲ得ス

第一　法律上ノ養料

第二　債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三　下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第四　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入

第五　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六　職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲メニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルヿヲ得

第七　寡婦及ヒ孤兒ノ恩給並ニ寡婦貯金所及ヒ孤兒貯金所ヨリ受取ルヘキ收入

教育金及ヒ學費助成金幷ニ癲人トナリタル勞役者ノ恩給

第八　將校、軍醫及ヒ海軍下士、官吏、僧侶、公立教育場教師ノ職務上ノ收入、一時又ハ永久休職トナリタル後此等ノ者ノ恩給幷ニ此等ノ者ノ死後其遺族ニ與ヘラルヘキ扶助料又ハ特賜金

第七號第八號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一个年間ニ千五百「マルク」ノ額ヲ超ユルトキハ其超過額ノ三分一ハ差押ヲ受ク

私ノ役務ニ常任セラレタル人「千八百六十九年六月二十一日ノ獨逸法律第四條第四號」ノ給料及ヒ役務上ノ收入ハ其總額一年間ニ千五百「マルク」ヲ超ユル部分ニ限リ差押ヘラル

前両項ノ場合ニ於テハ訴ノ提起後ノ時間及ヒ訴ノ提起前最終ノ三月間支拂ヲ可キ養料ニ付キ債務者ノ婦及ヒ婚姻上ノ子女ニ辨濟スル爲メ差押ヲ申立ツルトキハ其金額ニ拘ハラヌ差押ヲ爲ス

職務上ノ費用ノ支辨ニ供スル收入並ニ將校、軍醫及ヒ軍屬ノ官宅料ハ差押ヘラルヽコトナク且職務上ノ收入ノ差押ヘラルヽ可キモノナルヤ及ヒ幾許額マテ差押ヘラル可キモノナルヤヲ調査スル際之ヲ算入スルコト

第六百十九條　數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス（獨、七五一末項）

第六百二十條　執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツルマテ又ハ執達吏賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルヿヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スヿヲ得ス

右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ効力ヲ生ス

ヲ得ス

第七百五十條　金錢ノ債權ヲ數名ノ債權者ノ爲メ差押ヘタルトキ第三債務者ハ最初ニ送達ヲ受ケタル決定ヲ爲セシ區裁判所ニ事情ヲ屆出テ及ヒ送達ヲ受ケタル決定ヲ交付シテ債務額ヲ供托スル權利ヲ有シ及ヒ債權ヲ移付セラレタル債權者ノ求メニ依リ其供托ヲ爲スノ義務ヲ有ス

第七百五十一條　有体動産ニ關スル請求ヲ數名ノ債權者ノ爲メ差押ヘタルトキ第三債務者ハ最初ニ送達ヲ受ケタル決議書ニ從ヒ物件領收權ヲ有スル執達吏ニ事情ヲ屆出テ及ヒ送達ヲ受ケタル決定ヲ交付シテ其物件ヲ之ニ引渡ス權利ヲ有シ及ヒ請求ヲ移付セラレタル債權者ノ求メニ依リ其引渡ヲ爲スノ義務アリ債權者執達吏ヲ指名セサルトキハ其指名ハ第三債務者ノ申立ニ因リ物件ヲ引渡ス可キ地ノ區裁判所之ヲ爲ス

賣得金カ債權ヲ償フニ足ラス且第二又ハ其後ニ差押ヲ爲サシメタル債權者他ノ關係アル債權者ノ承諾ナクシテ差押ノ順序ニ戻リ配當ヲ求ムルトキハ執達吏ハ第三債務者カ最初ニ送達ヲ受ケタル決定ヲ爲セシ區裁判所ニ賣得金ヲ供託シテ事情ヲ屆出テサル可ラス此屆書ニハ其手續ニ關スル書類ヲ添附ス

數名ノ債權者ノ爲メ同時ニ差押ヲ爲シタルトキモ亦同一ノ方法ヲ以テ處分ス（日、六一

第六百二十一條　金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スルノ權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スルノ義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其情況ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第七百五十二條　請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其物件所在地ノ區裁判所ヨリ任セラレタル保管人又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ任セラルヘキ保管人ニ事情ヲ屆出テ及ヒ送達ヲ受ケタル決定ヲ交付シ其物件ヲ引渡ス權利ヲ有シ及ヒ請求ヲ移付セラレシ債權者ノ爲メニ依リ其引渡ヲ爲スノ義務アリ

第七百五十三條　請求ヲ移付セラレタル各債權者ハ第三債務者ニ對シ第七百五十條乃至第七百五十二條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ノ負擔スル義務ヲ盡サシムル訴ヲ起ス權アリ

請求ヲ差押ヘシメタル各債權者ハ訴訟中何時タリトモ共同訴訟人トナリテ原告ニ附帶スルコトヲ得

第三債務者ハ訴ヲ起サス且原告ニ附帶セサリシ債權者ヲ口頭辯論ノ期日ニ呼出サヽルヿカヲス

訴ヲ以テ申立テタル請求ニ付テノ訴訟中ニ言渡ス裁判ハ債權者總員ノ利トナリ及ヒ不利トナルノ效アリ

口頭辯論ノ期日ニ第三債務者ヨリ呼出サヽル可ラサリシニ之ヲ呼出サヽリシ債權者ニ對シテハ第三債務者自己ノ利トナル裁判ヲ引用スルコトヲ得ス

第七百五十四條　不動産ニ對スル强制執行ノ目的ニ非サル他ノ財産權ニ對スル强制執行

第六百二十二條　請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ情況ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡スノ權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡スノ義務アリ

第六百二十三條　第三債務者カ取立手續ニ對シ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルヿヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハルノ權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランヿヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルヿヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホスノ効力アリ

第六百二十四條　差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スヿヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スヿヲ得

第六百二十五條　不動産ヲ目的トセス又前數條ニ揭ケタル以外ノ財産權ニ對スル强制執

ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第三債務者ナキトキハ差押ハ財産權ニ付テ各處分ヲ爲ス可ヲサルコトノ命令ヲ債務者ニ送達シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

裁判所ハ使用ノミ讓渡スルヿヲ得ル權利ニ對スル强制執行ニ付テハ特別ノ命ヲ發スルヿヲ得殊ニ使用權ニ對スル强制執行ニ付テハ管理ヲ命スルヿヲ得此場合ニ於テハ差押ハ使用スヘキ物件ヲ管理人ニ引渡シテ之ヲ爲ス但決定ヲ以テ既ニ之ヲ爲サヽルトキニ限ル」

權利其物ノ讓渡カ許ス可キモノナルトキハ此讓渡モ亦裁判所之ヲ命スルコトヲ得

第二節　不動産ニ對スル强制執行

行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債權者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルヿヲ得

第七百五十五條　地所ニ對スル强制執行ニ付テハ其地所所在ノ地ヲ管轄スル區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス

强制執行ハ其裁判所申立ニ因リ之ヲ命ス

（日、六四一）

第七百五十六條　數個ノ區裁判所管轄區ノ境界ニ付キ孰レノ區裁判所カ管轄權アルヤ不明ナルトキ又ハ其地所カ數個ノ區裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキハ關係者一名ノ申立ニ因リ直近上級裁判所ハ第三十六條ノ規定ヲ斟酌シテ其裁判所ノ一ヲ執行裁判所トシテ指定ス

同一ノ債務者ニ屬スル數個ノ地所カ數個ノ區裁判所ノ管轄區內ニ散在スルトキ之ニ對

シ強制執行ヲ申立ツルトキニモ同一ノ命令ヲ發スルコトヲ得（日、六四一）

第七百五十七條　不動產ニ對スル強制執行ハ其執行ト聯係スル督促手續及ヒ配當手續トハ共ニ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ム

各邦法律ハ殊ニ強制執行ニ付キ不動產ニ屬スル物件及ヒ權利ノ種類並ニ債權者カ其債權ヲ書入質帳ニ登記セシムル權利ノ程度及ヒ其登記ノ方法ヲモ亦之ヲ定ム

強制執行ニ關スル手續中特別ノ訴訟手續ヲ以テ完結ス可キ訴訟ノ起ルトキハ此法律ノ規定ニ從ヒ之ヲ完結ス配當ノ訴訟ニハ第七百六十五條乃至第七百六十八條ノ規定ヲ準用ス

第三節　配當手續

第七百五十八條　配當手續ハ動產ニ對スル強制執行ニ際シ關係アル債權者ノ辨濟ニ不足スル金額ヲ供託スルトキ之ヲ爲ス

第七百五十九條　管轄區裁判所〔七百二十八條第七百五十條乃至第七百五十二條〕ハ事情ニ付テノ屆書ヲ受ケタル後關係アル各債權者ニ對シ二週內ニ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キノ催告ヲ發ス

第七百六十條　此二週ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル

配當手續ノ費用額ハ配當額ノ內ヨリ第一ニ之ヲ引去ル配當表ヲ作ルマテ其受ケタル催

第四款　配當手續

第六百二十六條　配當手續ハ動產ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間內ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタル時之ヲ爲ス

第六百二十七條　裁判所ハ情況屆書ニ基キ七日ノ期間內ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條　前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ屆書ノ旨趣及ヒ

告ニ應セサル債權者ノ債權ハ屆書及ヒ其證據書類ニ依リ之ヲ計算ス後日ニ至リ債權ノ補充ヲナスコトヲ許サス

第七百六十一條　裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ定ム配當表ハ關係者ニ展覽セシムルカ爲メ遲クトモ期日ノ三日前ニ之ヲ裁判所書記課ニ備置クコトヲ要ス

期日ノ爲ニスル債務者ノ呼出ハ外國ニ於テスル送達又ハ公示送達ヲ要スルトキハ之ヲ要セス

第七百六十二條　期日ニ於テ配當表ニ對シ異議ヲ申立サルトキハ其表ヲ實施ス異議ヲ申立ツルトキハ之ニ關係セル各債權者ハ直

其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルヿヲ許サス

第六百二十九條　裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スヿヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閲覽セシムル爲メ遲クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條　期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ニ陳述セサル可ラス

關係者カ異議ヲ理由アリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正ス異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ受クサル部分ニ限リ配當表ノ實施ヲ爲ス

第七百六十三條　期日ニ出頭セス及ヒ期日前ニ民法ニ從ヒ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條　異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施ス可シ（獨、七六二）

第六百三十二條　期日ニ出頭セサル債權者ハ

裁判所ニ異議ヲ申立テサル債權者ニ對シテハ記當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ノ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其異議ヲ理由アリト認メサルモノト看做ス

第七百六十四條　異議ヲ申立ツル債權者ハ豫メ催告ヲ受クルコトナクシテ配當期日ト共ニ始マル一箇月ノ期間內ニ關係アル債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ裁判所ニ證明スルコトヲ要ス此期間ノ空ク滿了シタル後ハ異議ニ拘ハラス配當表ニ對シ異議ヲ申立テタル債權者カ其表ニ從ヒ金錢ヲ受取リタル債權者ニ對シ訴

配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條　期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルヿヲ期日ヨリ七日ノ期間內ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條　異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠タリタルトキト雖モ配當表ニ從ヒ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルヿ無シ

第六百三十五條　異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ之ヲ起ス

地方裁判所ハ申立ヲ爲シタルモ配當期日ニ完結セサリシ異議ノ旨趣ニ從ヒ一訴訟ニ付テノミ管轄ヲ有スルトキト雖總テノ訴ニ付キ管轄ヲ有ス但關係アル債權者ノ總員カ總テノ異議ニ付キ配當裁判所カ裁決ス可キコトヲ合意セサルトキニ限ル

第七百六十六條　申立テタル異議ニ付キ裁判ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ期間ノ懈怠及ヒ配當表ノ實施ノ爲メニ妨ケラルルヿ無シ

第七百六十五條　其訴ハ配當裁判所ニ之ヲ起シ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ之ヲ起ス

地方裁判所ハ申立ヲ爲シタルモ配當期日ニ完結セサリシ異議ノ旨趣ニ從ヒ一訴訟ニ付テノミ管轄ヲ有スルトキト雖總テノ訴ニ付キ管轄ヲ有ス但關係アル債權者ノ總員カ總テノ異議ニ付キ配當裁判所カ裁決ス可キコトヲ合意セサルトキニ限ル

第六百三十六條　異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決

ヲ爲ス判決ニハ同時ニ配當額ノ係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定メサル可ラス之ヲ定ムルコトヲ適當ト認メサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製其他ノ配當手續ヲ命ス

第七百六十七條　異議ヲ申立テタル債權者ニ對スル欠席判決ハ其異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ヲ言渡ス

第七百六十八條　配當裁判所ハ言渡シタル判決ニ基キ支拂其他ノ配當手續ヲ命ス

ニハ配當額ノ係爭部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルヿヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條　異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條　前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條　裁判所ハ配當表ニ因リ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

第二節　不動産ニ對スル制强執行

第一款　通則

第六百四十條　不動産ニ對スル强制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一　强制競賣

第二　强制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルヿヲ得

强制管理ハ假差押ノ執行ノ爲メニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條　不動産ニ對スル强制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

强制執行ハ申立ニ因リ裁判所之ヲ爲ス（獨、七五五及七五六ニ對比ス）

第二款　强制競賣

第六百四十二條　强制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヿヲ要ス

第一　債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示
第二　不動產ノ表示
第三　競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條　申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ
第一　登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動產ニ付テハ登記判事ノ認證書
第二　登記簿ニ登記アラサル不動產ニ付テハ債務者ノ所有タルヿヲ證ス可キ證書
第三　地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一ケ年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書
第四　建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一ケ年ノ公課ヲ證ス可キ證書
第五　地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルヿヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルヿヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記錄ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノアルトキハ其證書ヲ添附スルヿヲ要セス

第六百四十四條　競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動產ヲ差押フルヿヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動產ノ利用及ヒ管理ヲ爲スヿヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動產ニ付キ强制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スヿヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ因リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條　配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサ

ル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スヿヲ得

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スヿヲ得

第六百四十七條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルヿヲ利害關係人ニ通知スヿ可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツヿ可シ

債務者カ認諾セサルヿヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定スヿ可シ

第六百四十八條　左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人トス

第一　差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二　債務者

第三　登記簿ニ記入アル不動產上權利者

第四　不動產上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記錄ニ備フヿヲ可キ屆出ヲ爲シタル者

第六百四十九條　差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動產ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ルノ見込アルニ非サレハ賣却ヲ爲スヿヲ得ス

不動產ハ賣却ニ因リ登記簿ニ記入ヲ要スル總テノ不動產上ノ負擔ヲ免カルルモノトス但競落人其負擔ヲ引受ケタルトキハ此限ニ在ラス

登記簿ニ記入ヲ要セサル不動產ノ負擔ハ競落人之ヲ引受クルモノトス

第六百五十條　權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルヿヲ知リタルトキハ差押ノ効力ニ對シ其善意ナリシヿヲ主張スルヿヲ得ス

若シ不動產カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルヿヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行スヿ可シ

競賣申立ノ取下ニ因テ差押ハ消滅ス

第六百五十一條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲スノ際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルヿヲ登記簿ニ記入スヿ可キ旨ヲ登記判事ニ囑託スヿ可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒ記入ヲ爲スヿ可シ

第六百五十二條　登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條　豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其情況ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障碍ノ消滅シタルヿヲ證明ス可キヿヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官署ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キヿヲ期間ヲ定メ催告ス可シ

第六百五十五條　裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官署ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トス

第六百五十六條　裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アルノ見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條　裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ルノ見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メ之ヲ公告ス

第六百五十八條　競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヿヲ要ス

第一　不動産ノ表示

第二　租稅其他ノ公課

第三　賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃

第四　强制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨

第五　競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

第六　最低競賣價額

第七　競落期日ノ場所及ヒ日時

第八　執行記錄ヲ閲覽シ得ヘキ場所

第九　登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十　利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

第六百五十九條　競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條　競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルヿヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條　競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ掲示シテ之ヲ爲ス

第一　裁判所ノ掲示板

第二　不動産所在地ノ市町村ノ掲示板

其他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルヿヲ得

第六百六十二條　最低競賣價額ヲ除クノ外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スヿヲ得

第六百六十三條　競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條　利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメンヿヲ申立ルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルニ非サレハ其競買ヲ許サス

右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルヿヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦効力アリ

第六百六十五條　競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キノ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルヿヲ得ス

第六百六十六條　執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムルノ權利アリ

第六百六十七條　競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヿヲ要ス

第一　不動産ノ表示

第二　差押債權者ノ表示

第三　執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シタルヿ又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルヿ

第四　競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五　總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキヿ

第六　競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七　申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルヿ又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルヿ

第八　最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルヿ

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取リ之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條　執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日內ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條　最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スヿヲ得

第六百七十條　競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條　競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クヿヲ要ス

第一　强制執行ヲ許ス可カラサルヿ又ハ執行ヲ續行ス可カラサルヿ

第二　最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スルノ能力ナキヿ

第三　法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルヿ又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルヿ

第四　競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキヿ

第五　競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ因リ之ヲ爲ササルヿ

第六　第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシヿ

第七　第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルヿ

第八　第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルヿ

第六百七十三條　異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス

但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スヿヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條　數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルヿヲ得

第六百七十六條　第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條　前條ノ規定ニ從ヒ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第百二十九條乃至第百三十二條及ヒ第百三十四條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條　競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タルノ呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消スノ權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所情況ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條　競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許シタル競

買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ク可シ

右決定ハ之ヲ言渡スノ外尚ホ裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ公告ス可シ

第六百八十條　利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スヿヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキヿ又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キヿヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キヿヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スヿヲ得

右抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競落人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十一條　競落ヲ許サザル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキヿヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スヿヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルヿヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スヿヲ得

取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラルルヿ無シ

第六百八十二條　抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條　執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ掲示板ニ掲示シテ公告ス可シ

第六百八十四條　競落ヲ許サザル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

第六百八十五條　第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許サザルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條　競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リ不動產ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條　競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動產ノ引渡ヲ求ムルヿヲ

得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條　競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲メニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコヲ許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩餘ノ額ヲ請求スルコヲ得ス

第六百八十九條　共有物持分ノ强制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ强制競賣ノ申立アリタルコヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其强制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條　競賣申立カ競落ヲ許スコトナクシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル差押記入ノ抹殺ヲ登記判事ニ嘱託ス可シ

第六百九十一條　競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條　各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條　代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ

呼出ス可シ

第六百九十四條　期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ撥許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一　代金

第二　不動産カ果實其他金錢ニ見積ルヿヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條　裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條　配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條　配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條　期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツルノ權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒ之ヲ完結ス

第六百九十九條　競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クルノ外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルヿヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因テ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條　配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一　競落人ノ所有權ノ登記
第二　競落人ノ引受ケサル不動產上負擔記入ノ抹殺
第三　第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹殺
右登記及ヒ抹殺ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔スヲ可シ

第七百一條　數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動產ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條　裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルヿヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條　入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ
入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヿヲ要ス
第一　入札人ノ氏名及ヒ住所
第二　不動產ノ表示
第三　入札價額

第七百四條　執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ
二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム
一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條　最高價入札人タルノ呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求ヲ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スルノ義務アリ

第三款　强制管理

第七百六條　强制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス
不動產カ債權者ノ債權ニ付キ不動產上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動產ヲ債務者カ占有スルヿヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條　裁判所ハ强制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルヿ及ヒ不動產ノ收益ニ付キ處分スルヿヲ禁シ又不動產ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キヿヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條　裁判所ハ强制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動產ニ付キ强制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スヿヲ得ス

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル强制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動產ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條　配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルヿヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條　管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルヿヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動產ヲ占有スルノ權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルヿヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツルノ權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條　裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ二十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルヿヲ得

第七百十三條　第三者不動產ニ付キ强制管理ヲ許スヿヲ妨クルノ權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條　管理人ハ直チニ不動產ニ付キ得タル收益ヨリ其不動產ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條　管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナシ且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナシ又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條　强制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ强制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ强制管理ニ關スル記入ノ抹殺ヲ囑託ス可シ

第三節　船舶ニ對スル强制執行

第七百十七條　商船其他ノ海船ニ對スル强制執行ハ不動産ノ强制競賣ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因テ差違ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條　船舶ノ强制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條　船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條　强制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二　船舶ヵ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テ其船舶ニ關スル有効ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官署カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランヿヲ執行裁判所ニ申立ツルヿヲ得

第七百二十一條　裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシムル可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ効力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ據納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スヿヲ得

第七百二十二條　船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ効力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タルノ責務ヲ免カル

第七百二十三條　船舶ヵ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルヿノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條　競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條　定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ掲示ス可キヿヲ囑託ス可シ

第七百二十六條　船舶ノ股分ニ對スル强制執行ハ六百二十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルヿヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添付ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債權者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條　船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條　外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキハ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ

登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章　物件ノ引渡又ハ行爲若クハ不行爲ヲ完了セシムル强制執行

第七百六十九條　債務者カ動産ヲ引渡シ又ハ一定ノ動産ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ其物件ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス

引渡ス可キ物件現在セサルトキハ債務者ハ債權者ノ中立ニ因リ左ノ明告宣誓ヲ爲ス義務アリ

債務者ハ物件ヲ占有セス亦物件ノ所在ヲ知ラス

裁判所ハ事件ノ事情ニ應シ其宣誓式ノ變更ヲ決定スルコトヲ得

第七百七十條　債務者カ代替物又ハ有價證券

第三章　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行

第七百三十條　債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

ノ一定ノ數量ヲ給付ス可キトキハ第七百六十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七百七十一條　債務者カ不動産又ハ住居ニ供シタル船舶ヲ引渡シ又ハ放讓シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡シ又ハ其處分ニ任カス債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族又ハ雇人ニ引渡シ又ハ其處分ニ任ス

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル人ノ一名現在セサルトキハ執達吏ハ債務者ノ費用ニテ其物件ヲ質物儲藏所ニ入置シ又ハ其他ノ方法ヲ

以テ保管ニ付ス

債務者其還付ノ請求ヲ怠ルトキハ執行裁判所ハ其物件ヲ賣却シテ其賣得金ノ供託ヲ命スルコトヲ得

第七百七十二條　引渡ス可キ物件カ第三者ノ占有中ニ在ルトキハ債權者ノ申立ニ因リ金錢ノ債權差押ニ關スル規定ニ從ヒ物件引渡シニ付テノ債務者ノ請求ヲ債權者ニ移付セサル可カラス

第七百七十三條　債務者第三者ヲシテ爲サシムルコトヲ得ル行爲ヲ爲ス義務ヲ盡サヽルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ債務者ノ費用ニテ其行爲ヲ爲サシムルノ權ヲ

第七百三十一條　債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限リ之ヲ爲スヿヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條　引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條　債務者カ爲ス可キ行爲ヲ爲ササル場合ニ於テ第三者之ヲ爲シ得ヘキモノナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法（財産編第三百八十二條第三項第四

債權者ニ與フ

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル言渡アランコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ大ナル費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

物件ノ引渡又ハ給付ヲ爲サシムル强制執行ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百七十四條　第三者ヲシテ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得サル場合ニ於テ其行爲カ特ニ債務者ノ意思ニ係ルモノナルトキハ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ債務者ニ對シ全額千五百「マルク」以下ノ罰金又ハ拘留ヲ以テ其行爲ヲ爲スヘキコトヲ言渡スコトヲ得

項）ノ規定ニ從ヒ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲スノ權利ヲ妨ケス

第七百三十四條　債務者カ其意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニシテ第三者之ヲ爲シ得ヘカラサルモノナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法（財產編第三百八十六條第三項）ノ規定ニ從ヒ決定ヲ爲ス

此規定ハ婚姻取結ヲ言渡ス場合ニハ之ヲ適用セス婚姻上生活恢復ノ判決言渡ノ場合ニアリテハ各邦法律ニ於テ婚姻上生活ノ恢復ヲ强テ行ハシムルコトヲ許ストキニ限リ之ヲ適用ス

第七百七十五條　債務者カ行爲ヲ爲サヽル義務又ハ行爲ヲ敢行ス可キ義務ニ背反スルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ債務者ニ對シ其各背反ニ付キ千五百「マルク」以下ノ罰金又ハ六个月以下ノ拘留ヲ言渡ス合刑ノ限度ハ二个年ノ拘留ヲ超過スルコトヲ許サス

其言渡前豫メ刑ノ警戒ヲ爲スコトヲ要ス其警戒ハ義務ヲ言渡ス判決ニ揭ケサルトキハ

申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所之ヲ言渡ス

債權者ノ申立ニ因リ其後ノ背反ニ因リ生スル損害ニ付キ一定ノ時間保證ヲ立ツ可キコトヲ債務者ニモ亦言渡スコトヲ得

第七百七十六條　第七百七十三條乃至第七百七十五條ニ從ヒテ言渡ス可キ裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其判決前債務者ヲ審訊ス

第七百七十七條　債務者カ第七百七十三條第七百七十五條ノ規定ニ從ヒテ敢行ス可キ行爲ニ對シ抗抵ヲ爲ストキ債權者ハ其抗抵ヲ除去スル爲メ第七百七十八條第三項ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲ス可キ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

第七百三十五條　前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヿヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百七十八條　損害賠償ヲ要求スル債權者ノ權利ハ本章ノ規定ノ爲メ變更ヲ受クルコトナシ

債權者ハ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ以テ損害賠償ノ請求ヲ主張セサル可カラス

第七百七十九條　債權者カ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ言渡ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定シタルトキ直ニ其陳述ヲ爲シタルモノト看做ス意思ノ陳述カ反對給付ニ係ルトキハ第六百六十四條第六百六十六條ノ規定ニ從ヒテ確定判決ノ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ直ニ其陳述ヲ爲シタル效力ヲ生ス

第一項ノ規定ハ婚姻取結ヲ言渡ス場合ニハ之ヲ適用セス

第七百三十六條　債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キヿ又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キヿノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノアリタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其効力ヲ生ス

第五章　假差押及ヒ假處分

第七百九十六條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ル請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル强制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲ス

假差押ハ請求カ有期ナルモ之ヲ爲スコトヲ禁セス

第七百九十七條　物件ノ假差押ハ之ヲ爲サヽレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

判決ヲ外國ニ於テ執行スルコトヲ要スルトキハ之ヲ十分ナル假差押ノ理由ト看做ス

第七百九十八條　身体ノ保全假差押ハ債務者ノ財産ニ對スル强制執行ノ危險アル場合ニ於テ之ヲ保全スル爲メ必要ナルトキニ限リ之ヲ許ス

第七百九十九條　假差押ノ命令ニ付テハ本案ノ裁判所又ハ假ニ差押ユ可キ物件又ハ身體ノ自由ヲ制限セラル可キ人ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ管轄ス

第八百條　申請ニハ請求及ヒ其金額又ハ價格幷ニ差押ノ理由ヲ揭ク可シ

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疏明ス

申請ハ裁判所書記ノ面前ニ於テ調書ニ依テ陳述スルコトヲ得

第四章　假差押及ヒ假處分

第七百三十七條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル强制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スヿヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スヿヲ得

第七百三十八條　假差押ハ之ヲ爲サヽレハ判決ノ執行ヲ爲スヿ能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スルノ恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スヿヲ得

第七百三十九條　假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條　假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二　假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疏明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得

第八百一條　裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ相手方ニ生ス可キ損害ノ爲メ裁判所ノ意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立ツルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得裁判所ハ請求及假差押ノ理由ヲ疏明スルトキト雖モ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

第八百二條　申請ニ付テノ裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但其他ノ場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ヲ申請シタル當事者ハ假差押ヲ命スル決定ヲ送達セシメサル可ラス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ豫メ保證ヲ立ツルコトヲ必要ナリト宣言スル決定ハ相手方ニ之ヲ通知セス

第八百三條　假差押ノ命令ニハ供託ニ因テ假差押ノ執行ヲ停止シ又ハ債務者カ執行セラレタル假差押ノ取消ヲ申立ツル權アル金額ヲ確定セサル可ラス

第八百四條　假差押ヲ命スル決定ニ對シテハ異議ヲ許ス異議ヲ申立ツル當事者ハ假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルヿヲ要セス

第七百四十一條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヿヲ得請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルヿヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルヿヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルヿ及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルヿヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判

論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ヲ申請シタル當事者ハ假差押ヲ命スル決定ヲ送達セシメサル可ラス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ豫メ保證ヲ立ツルコトヲ必要ナリト宣言スル決定ハ相手方ニ之ヲ通知セス

第八百三條　假差押ノ命令ニハ供託ニ因テ假差押ノ執行ヲ停止シ又ハ債務者カ執行セラレタル假差押ノ取消ヲ申立ツル權アル金額ヲ確定セサル可ラス

第八百四條　假差押ヲ命スル決定ニ對シテハ異議ヲ許ス異議ヲ申立ツル當事者ハ假差押ノ執行ヲ停止スルヿヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スヿヲ得ル爲メニ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條　債務者假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルヿヲ得

ノ取消ヲ主張セント欲スル理由ヲ通知シテ相手方ヲ口頭辯論ニ呼出ス

異議ヲ申立ツルモ假差押ノ執行ヲ停止セス

第八百五條　異議ヲ申立ツルトキハ假差押ノ當否ニ付キ終局判決ヲ以テ裁判ス

裁判所ハ假差押ノ全部若クハ一部ヲ認可シ變更シ又ハ取消スコトヲ得亦自由ナル意見ヲ以テ定ムル可キ保証ヲ立ルトキニ限リ其認可、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第八百六條　本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ假差押ノ命ヲ發セシメタル當事者カ裁判所ノ定ムル可キ期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ申立ニ因リ豫メ口頭辯論ヲ經ス

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルノ理由ヲ開示ス可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條　異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キヿノ條件ヲ付シテ之ヲ言渡スヿヲ得

第七百四十六條　本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キヿヲ債權者ニ命ス可シ

シテ命セサル可ラス

此命ニ從ハサルトキハ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ノ取消ヲ宣言セサル可ラス

第八百七條　假差押ノ取消ハ假差押ノ認可後ト雖モ事情ノ變更シタル爲メ殊ニ假差押ノ理由ノ消滅ニ因リ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ノ提供ニ依リ之ヲ申立ツルコトヲ得

裁判ハ終局判決ヲ以テ之ヲ言渡ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所之ヲ爲ス本案カ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第八百八條　假差押ノ執行ニハ强制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ之ニ異ナル規定ヲ揭ケサルトキニ限ル

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條　債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他情況ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルヿヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條　假差押ノ執行ニ付テハ强制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第八百九條　假差押ノ命令ハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アリタル場合ニ限リ執行文ヲ要ス

假差押ノ命令ノ執行ハ其命令ヲ言渡シ又ハ申請ヲ以テ其命令ヲ發セシメタル當事者ニ送達シタル日ヨリ二週ヲ經過シタルトキハ之ヲ許サス

第八百十條　動產ニ對スル假差押ノ執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス其差押ハ他ノ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲シ第七百九條ニ定メタル効力ヲ有スル質權ヲ生ス債權ノ差押ニ付テハ假差押裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス

第七百四十九條　假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アリタル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルヿヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スヿヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スヿヲ得

第七百五十條　動產ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スヿヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レ𪜈假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スルノ恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルヿヲ得

第七百五十一條　不動產ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リ之ヲ爲ス

第七百五十二條　假差押執行ノ爲メ强制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

差押ヘタル金錢及ヒ配當手續ニ於テ債權者ノ有ニ歸シタル賣得金額ハ之ヲ供託ス

有体動產カ著シク價額ヲ減スル恐アルトキ又ハ其物件ノ貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ之ヲ競賣シテ其賣得金ヲ供託スルコトヲ命スルコトヲ得

第八百十一條　不動產ニ對スル假差押ノ執行ハ各邦法律ヲ以テ之ヲ定ム

第八百十二條　身體ノ保全假差押ノ執行ハ拘留ヲ以テスル場合ニ於テハ第七百八十五條乃至第七百九十四條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲シ其他身體上ノ自由ノ檢束ヲ以テスル場合ニ於テハ拘留ノ制限ニ準據シ假差押裁判所

ノ發ス可キ特別ノ命ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第八百十三條　假差押ノ命令ニ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且申請ヲ以テ假差押ヲ爲サシメタル當事者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキモ執行裁判所ハ亦假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

本條ニ掲ケタル裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十三條　船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルニ因リ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條　假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ許ス

第八百十四條　訴訟物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第八百十五條　假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ假差押手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ之ニ異ナル規定ヲ掲ケサルトキニ限ル

第八百十六條　假處分ヲ發スルコトハ本案ノ裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條　係爭物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スルノ恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條　假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條　假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第八百十七條　裁判所ハ自由ナル意見ヲ以テ目的ヲ達スルニ如何ナル命令ヲ要スルヤヲ定ム

假處分ハ保管ヲ爲シ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ殊ニ地所ノ讓渡負擔若クハ質入ヲ禁スルコトヲ以テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第八百十八條　特別ノ事情アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第八百十九條　假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ一時ノ事情ヲ處分スル爲メニモ亦之ヲ許スス其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル强暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第八百二十條　急迫ナル場合ニ於テハ訴訟物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ相手方ヲ本案ノ裁判所ニ呼出ス可キ期間ヲ定メ假處分ヲ發スルコトヲ得

此期間ノ空ク滿了シタルトキハ區裁判所ハ申立ニ因リ其發シタル處分ヲ取消ス

本條ニ揭ケタル區裁判所ノ裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第八百二十一條　本章ノ規定ニ謂ヘル本案ノ

第七百五十八條　裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルヿヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得

假處分ヲ以テ不動產ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スヿヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條　特別ノ情況アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スヿヲ得

第七百六十條　假處分ハ爭アル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定ムル爲メニモ亦之ヲ爲スヿヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル强暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條　急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルヿヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヿヲ得

第七百六十二條　本章ノ規定ニ於ケル本案ノ

裁判所トハ第一審裁判所トス又本案カ控訴審ニ繫屬スルトキハ控訴裁判所ヲ以テ本案ノ裁判所ト看做ス

第八百二十二條　急迫ナル場合ニ於テ裁判長ハ本章ニ掲ケタル申請ニ付キ裁判所ニ代テ裁判スルコトヲ得但其申請ノ完結カ豫メ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要セサルトキニ限ル

管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス

第七百六十三條　急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スヿヲ得

第九編　公示催告手續

第八百二十三條　請求又ハ權利ノ屆出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其屆出ヲ爲サヽルトキハ失權ヲ生スル効力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ許ス

公示催告手續ニ付テハ法律ニ定メタル裁判所之ヲ管轄ス

第八百二十四條　申立ハ書面又ハ裁判所書記ノ調書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ發ス其催告ニハ殊ニ左ノ請件ヲ掲ク

第一　申立人ノ表示

第二　請求及ヒ權利ヲ遲クトモ公示催告

第七編　公示催告手續

第七百六十四條　請求又ハ權利ノ屆出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其屆出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スルノ効力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ爲スヿヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條　公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヿヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

期日ニ届出ツ可キコトノ催告

第三　届出ヲ爲サヽルニ因リ生スル失權ノ表示

第四　公示催告期日ノ指定

第八百二十五條　公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ貼附シ及獨逸官報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ於テ此場合ニ關シ之ニ異ナル規定ヲ設ケサルトキニ限リ第百八十七條ニ於テ呼出ニ付キ定メタル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第八百二十六條　貼附ス可キ書類ヲ貼附ノ場所ヨリ早ク取除キタルトキ又ハ再度公告ノ場合ニ於テ規定上ノ中間期間ヲ守ラサルトキ雖ヒ公告ノ効力ニ影響ヲ及ホサス

第八百二十七條　獨逸官報ニ公示催告ノ掲載ヲ爲シ又ハ第一ノ掲載ヲ爲シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少クトモ六週ノ時間アルコトヲ要ス但法律ニ之ニ異ナル規定ヲ掲ルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十八條　公示催告期日ノ終リタル後ト雖ヒ除權判決ノ言渡前ニ爲シタル届出ハ之ヲ適當ナル時間內ノ届出ト看做ス

第八百二十九條　除權判決ハ申立ニ因リ公開ノ法廷ニ於テ之ヲ言渡ス

右判決ノ言渡前ニ詳細ナル探知ヲ命シ殆ニ申立人ノ主張ノ眞實ニ付キ宣誓ヲ以テスル

第一　申立人ノ表示

第二　請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キノ催告

第三　届出ヲ爲ササルニ因リ生スヘキ失權ノ表示

第四　公示催告期日ノ指定

第七百六十六條　公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第百五十七條第三項ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス

第七百六十七條　公示告催ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクモ二ケ月ノ時間ヲ存スルヿヲ要ス

第七百六十八條　公示催告期日ノ終リタル後ト雖ヒ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條　除權判決ハ申立ニ因リ之ヲ爲ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルヿヲ得

保證ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ言渡ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ許ス

第八百三十條　申立ノ理由トシテ申立人ノ主張シタル權利ヲ爭フコトノ屆出アリタルトキハ塲合ノ事情ニ從ヒ屆出テタル權利ニ付テ終局裁判ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ屆出テタル權利ヲ留保ス

第八百三十一條　申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ更ニ期日ヲ定ム此申立ハ公示催告期日ヨリ經過スル六个月ノ期間内ニ限リ之ヲ許ス

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヿヲ得

第七百七十條　申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フヿノ屆出アリタルトキハ其情況ニ從ヒ屆出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ屆出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條　申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六箇月ノ期間内ニ限リ之ヲ爲スヿヲ許ス

第八百三十二條　公示催告手續完結ノ爲メ更ニ期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ要セス

第八百三十三條　裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ノ公告ヲ獨逸官報ニ一回掲載シテ爲スコトヲ命スルヲ得

第八百三十四條　除權判決ニ對シテハ上訴ヲ許サス

除權判決ニ對シテハ左ノ塲合ニ於テ申立人ニ對シ起ス可キ訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一　法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス塲合ノ存セサルトキ

第七百七十二條　公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スヿヲ要セス

第七百七十三條　裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スヿヲ得

第七百七十四條　除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スヿヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ塲合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルヿヲ得

第一　法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス塲合ニ非サルトキ

第二　公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又

第二　公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サヌ又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サヽルトキ

第三　規定上ノ公示催告期間ヲ遵守セサルトキ

第四　判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ判事ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五　届出アリタルニ拘ハラヌ請求又ハ權利ヲ法律ニ從ヒ判決ニ於テ顧ミサルトキ

第六　罰セラルヘキ行爲ニ付キ原狀回復ノ訴ヲ爲スコトヲ得ル條件ノ存スルトキ

第八百三十五條　不服申立ノ訴ハ一箇月ノ不變期間内ニ之ヲ起サヽル可ラス此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル但訴カ第八百三十四條第四第六ニ掲ケタル不服理由ノ一ニ基キ且原告カ其理由ヲ其日ニ來タ知ラサリシ場合ニ於テハ其理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル

除權判決言渡ノ日ヨリ起算シテ十年ノ滿了後ハ訴ヲ許サス

第八百三十六條　裁判所ハ第百三十八條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數個ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第八百三十七條　紛失若クハ滅失シタル手形及ヒ商法第三百一條第三百二條ニ掲ケタル

ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サヽルトキ

第三　公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四　判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五　請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六　第四百六十九條第一號乃至第五條ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條　不服申立ノ訴ハ一箇月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五箇年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スヿヲ得ス

第七百七十六條　裁判所ハ第百二十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルヿヲ得

第七百七十七條　盗取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル爲替證券其他商法ニ無効ト爲シ

證書ノ無效宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ掲ケサル限リハ之ヲ適用ス

第八百三十八條　無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且白地裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

其他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張スルコトヲ得ル者此申立ヲ爲ス權アリ

第八百三十九條　公示催告手續ニ付テハ證書ニ履行地トシテ表示シタル地ノ裁判所之ヲ管轄ス證書ニ其履行ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿又ハ書入質帳ニ登記シタルトキハ其物件ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第八百四十條　申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲サヽル可ラス

第一　證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二　證書ノ滅失幷ニ公示催告手續ヲ申

得ヘキヿヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲メニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百七十八條　無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツルノ權アリ

其他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲スノ權アリ

第七百七十九條　公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スルノ原因タル請求ヲ發記簿ニ配入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條　申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一　證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルヿ

第二　證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示

立ツル權利ノ係ル事實ヲ疏明スルコト

第三　供述ノ眞實ナルコトニ付キ宣誓ヲ以テ保證ヲ爲スコトヲ申出ツルコト

第八百四十一條　證書ノ所持人ハ公示催告ヲ以テ遲クトモ公示催告期日ニ其權利ヲ裁判所ニ屆出且證書ヲ提出ス可キコトヲ督促ヲ以テ催告セラル又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲スコトヲ戒示ス

第八百四十二條　公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ貼附シ且催告裁判所ノ所在地ニ取引所ノ存スルトキハ取引所内ニ貼附シ幷ニ第百八十七條第二項ニ掲ケタル新聞紙ニ三回記載シテ之ヲ爲ス

裁判所ハ尙ホ他ノ新聞紙ニ數回記載スルコ

トヲ命スルコトヲ得

第八百四十三條　利子票又ハ利益配當票ヲ時々發行スル有價證券ニ付テハ其公示催告期日ハ紛失ヲ疏明セシ時以來發行シタル第一回ノ利子票又ハ利益配當票カ支拂期限トナリ且其期限以來公示催告期日マテニ六ケ月ノ滿了スル方法ヲ以テ之ヲ定ム

除權判決ノ言渡前申立人ハ右六箇月ノ期間滿了後當該官廳金庫又ハ塲局カ交付シタル紛失ノ證明書ヲ提出セサル可ラス其證明書ニハ疏明シタル紛失ノ時以來右官廳金庫又ハ塲局ニ新ナル票ヲ發行セシムル爲メ證書ヲ提出セサリシコト且申立人以外ノ人ニ新ナル票ヲ發行セサリシコトヲ證明セサル可

催告手續ヲ申立ツルヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルヿ

第七百八十一條　公示催告中ニ公示催告期日マテニ催利ヲ裁判所ニ屆出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可シ又失催トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條　公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁別所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示ス可シ

ラス

第八百四十四條　利子票又ハ利益配當票ヲ四年ヨリ長キ時間ノ爲メ最後ニ發行シタル有價證券ニ付テハ其公示催告期日ハ紛失ヲ疏明セシ時以來其票中四年ノ爲メニシタルモノノ支拂期限トナリ且ツ最後ニ期限トナリタルモノノ支拂期限以來公示催告期日マテニ六箇月ノ滿了スル方法ニ依リ之ヲ定ルヲ以テ足レリトス利子又ハ利益配當ヲ拂渡サヽル時間ノ票ハ此限外トス

除權判決ノ言渡前申立人ハ右六箇月ノ期間滿了後官廳金庫又ハ場局カ前項ニ掲ケタル四年限リ及ヒ四年以後ニ於テ支拂限トナル票ヲ右官廳金庫又ハ場局ニ申立人以外ノ者

ヨリ提出セサリシコトノ證明書ヲ提出セサル可ラス催告ヲ發シタル以後ニ於テ新ナル票ヲ發行シタルトキハ其證明書ニ第八百四十三條第二項ニ掲ケタルコトヲモ亦開示スルコトヲ要ス

第八百四十五條　利子票又ハ利益配當票ヲ發行シタルモ復之ヲ發行セサル有價證券ニ付テハ第八百四十三條第八百四十四條ノ要件アラサリシトキハ其公示催告期日ハ最後ニ發行シタル票ノ支拂期日以來公示催告期日マテニ六箇月ノ滿了スル方法ヲ以テ之ヲ定ム

第八百四十六條　獨逸官報ニ公示催告ノ第一回ノ掲載ヲ爲ス時未タ始マラサル支拂期日

ヲ負債證書ニ記載シタル場合ニ於テ第八百四十三條乃至第八百四十五條ノ條件存セサルトキハ公示催告期日ハ其支拂期日以來六箇月ノ滿了スル方法ヲ以テ之ヲ定ム

第八百四十七條　獨逸官報ニ公示催告ノ第一回掲載ヲ爲シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少クトモ六箇月ノ時間アルコトヲ要ス

第八百四十八條　除權判決ニ於テハ證書ヲ無效ナリト宣言ス

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ獨逸官報ヲ以テ公告ス

不服申立ノ訴ニ因リ言渡シタル判判ノ公告ハ判決確定シタル後前項同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第八百四十三條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクモ六箇月ノ時間ヲ存スルヿヲ要ス

第七百八十四條　除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

但其判決ヲ以テ無效宣言ヲ取消ストキニ限ル

第八百四十九條　第八百四十三條乃至第八百四十八條ノ規定ハ第八百三十七條第一項ニ掲ケタル證書以外ノ無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ルモノニシテ白地裏書ヲ備ヘタル證書ニモ亦之ヲ適用ス但證書ヲ發行セラレタル請求ヲ登記簿又ハ書入質帳ニ登記セサルトキニ限ル

公示催告手續ニ付キ尙ホ他ノ條件又ハ一層嚴重ナル條件ヲ掲ル規定ハ前項ノ規定ノ爲メ變更ヲ受ルコトナシ

第八百五十條　除權判決ヲ爲サシメタル者ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書

第七百八十五條　除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シ

ニ因レル權利ヲ主張スル權アリ

證書ニ因レル權利ヲ主張スルヿヲ得

第八百五十一條　爭ノ裁判ヲ一名又ハ數名ノ仲裁人ニ依テ爲ス可シトノ合意ハ當事者訴訟物ニ付キ和解ヲ爲ス權アル場合ニ限リ法律上効力ヲ有ス

第八百五十二條　將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ之ヨリ生スル爭ニ關セサルトキハ法律上効力ヲ有セス

第八百五十三條　民法ノ規定ニ從ヒテ口頭上取結ヒタル仲裁契約カ有効ナル場合ニ於テハ各當事者ハ其契約ニ付キ證書ノ調製ヲ求ルコトヲ得

第八百五十四條　仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定款ヲ揭ケサルトキハ各當事者ハ各

第七百八十六條　一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムルノ合意ハ當事者カ係爭物ニ付キ和解ヲ爲スノ權利アル場合ニ限リ其効力ヲ有ス

第七百八十七條　將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セサルトキハ其効力ヲ有セス

第七百八十八條　仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人

一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第八百五十五條　仲裁人ヲ選定スル權ヲ當事者雙方ニ屬スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ相手方ニ書面ヲ以テ仲裁人ヲ指示シ同時ニ一週ノ期間內ニ相手方モ亦同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス

此期間ヲ空ク滿了スル後ハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第八百五十六條　當事者ノ一方ハ仲裁人選定ノ通知ヲ相手方ノ受取タルトキハ直ニ相手方ニ對シ其選定ニ羈束セラル

第八百五十七條　仲裁契約ヲ以テ選定セサル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ仲裁人ノ職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ムトキハ其仲裁人ヲ選定シタル一方ハ相手方ノ催告ニ因リ一週ノ期間內ニ他ノ仲裁人ヲ選定セサル可ラス此期間カ空ク滿了スルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第八百五十八條　判事ヲ忌避スル權アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他忌避ハ仲裁契約ヲ以テ選定セサル仲裁人カ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキ亦之ヲ爲スコトヲ得

婦未成年者、聾者、啞者及ヒ公權ヲ剝奪セラレタル者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

ヲ選定ス

第七百八十九條　當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間內ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條　當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條　仲裁契約ヲ以テ選定シタル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間內ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條　當事者ハ判事ヲ忌避スルノ權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルヿヲ得

其他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルヿヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルヿヲ得

第八百五十九條　仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サヽリシトキハ效力ヲ失フ

第一　契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキ

第二　仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通告スルトキ

第八百六十條　仲裁人ハ仲裁裁判ノ言渡前ニ當事者ヲ訊問シ且爭ノ原因タル事件關係ヲ探知セサル可ラス但其探知ハ必要ナリト認ムルトキニ限ル

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意ナキトキハ仲裁人ハ其自由ナル意見ヲ以テ其手續ヲ定ム

第八百六十一條　仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人及ヒ鑑定人ノ宣誓及ヒ當事者ノ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

第八百六十二條　仲裁人カ判事ノ行爲ヲ必要ナリト認メ自ヲ之ヲ爲ス權ナキトキハ管轄裁判所ハ當事者一方ノ申立ニ因リ其行爲ヲ爲ス但其申立ヲ許サレタルモノト認ルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ノ訊問又ハ宣誓ヲ命シタル裁判所ハ證言又ハ鑑定ヲ拒ミタル場合ニ於

第七百九十三條　仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲サヽリシトキハ其効力ヲ失フ

第一　契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二　仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條　仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條　仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルヿヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルノ權ナシ

第七百九十六條　仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルヿ又ハ鑑定ヲ爲スヿヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲スノ權

テ必要ナル裁判ヲモ亦爲スノ權アリ

第八百六十三條　仲裁人ハ仲裁手續ノ許サレサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有効ナル仲裁契約ノ存立セサルコト又ハ仲裁契約カ裁判ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁裁判ヲ爲スコトヲ得

第八百六十四條　數名ノ仲裁人カ仲裁裁判ヲ爲ス可キトキハ仲裁契約ニ別段ノ定アラサルトキニ限リ過半數ヲ以テ判定ス

第八百六十五條　仲裁裁判ニハ其作リタル日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名シ當事者ニハ仲裁人ノ署名シタル正本ヲ送達シ且送達證ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク

第八百六十六條　仲裁裁判ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ノ効力ヲ有ス

第八百六十七條　左ノ場合ニ於テ仲裁裁判ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

第一　仲裁手續ノ許サレサルモノナリシトキ

第二　仲裁裁判カ當事者ノ一方ニ禁止セラレタル行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡ストキ

第三　當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規

アリ

第七百九十七條　仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルヿヲ主張スルトキ殊ニ法律上有効ナル仲裁契約ノ成立セサルヿ、仲裁契約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルヿ又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキヿヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スヿヲ得

第七百九十八條　數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス可キトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條　仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條　仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ効力ヲ有ス

第八百一條　仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルヿヲ得

第一　仲裁手續ヲ許ス可カラサリシトキ

第二　仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三　當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四　仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサ

定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ但其一方カ訴訟ヲ爲スコトヲ明諾又ハ默諾セシトキハ此限ニ在ラス

第四　仲裁裁判ニ於テ當事者ニ對シ法律上ノ訊問ヲ爲ササリシトキ

第五　仲裁裁判ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六　第五百四十三條第一乃至第六ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁裁判ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ第四第五ニ揭ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百六十八條　仲裁裁判ニ因リ爲ス强制執行ハ其許サレタルコトヲ執行判決ヲ以テ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁裁判ノ取消ヲ申立ツルヿヲ得ル理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百六十九條　執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁裁判ノ取消ハ第八百六十七條第六號ニ揭ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ其過失ナクシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ申立ツルコト能ハサリシコトヲ疏明スルトキニ限ル

第八百七十條　仲裁裁判取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一ケ月ノ不變期間內ニ之ヲ起ス

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日

リシトキ

第五　仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六　第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ揭ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スヿヲ得ス

第八百二條　仲裁判斷ニ因リ爲ス强制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キヿヲ言渡シタルニ限リ之ヲ爲スヿヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルヿヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スヿヲ得ス

第八百三條　執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ揭ケタル理由ニ因テノミ之ヲ申立ツルヿヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシヿヲ疏明シタルトキニ限ル

第八百四條　仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一ケ月ノ不變期間內ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日

ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラス其判決ノ確定ノ日ヨリ起算シテ十ケ年ノ滿了後ハ訴ヲ許サス

仲裁裁判ヲ取消ストキハ同時ニ執行判決ノ取消ヲ言渡ス

第八百七十一條　仲裁人ノ選定又ハ忌避、仲裁契約ノ消滅、仲裁手續ノ許サレサルコト仲裁裁判ノ取消又ハ執行判決ノ言渡ヲ目的トスル訴ニ付テハ書面上ノ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スルコトニ付キ管轄ヲ有スル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五ケ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スヿヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

第八百五條　仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルヿ、仲裁契約ノ消滅スルヿ、仲裁手續ヲ許ス可カラサルヿ、仲裁判斷ヲ取消スヿ又ハ執行判決ヲ爲スヿヲ目的トスルノ訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル數個ノ裁判所アルトキハ當事者ノ一方又ハ仲裁裁判所〔第八百六十五條〕カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

第八百七十二條　遺言又ハ其他契約ニ出テサル處分ニ依リ法律ニ許サレタル方法ヲ以テ選定スル仲裁裁判所ニハ本編ノ規定ヲ準用ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

第十節　宣誓ノ證

第四百十條　宣誓要求ハ相手方其前主又ハ其代理人ノ行爲ニ屬スル事實又ハ此者等ノ實驗シタル事實ニ付テノミ之ヲ許ス

第四百十一條　宣誓要求ハ裁判所ニ於テ反對ヲ證明セラレタリト認ル事實ニ付テハ之ヲ許サズ

第四百十二條　擧證ノ義務ヲ有セサル當事者ハ宣誓要求ニ依テ（相手方ノ）擧證ノ義務ヲ負擔セス

第四百十三條　宣誓ノ反對要求ハ第四百十條ノ規定ニ從ヒ宣誓要求ヲ許スヘキ場合ニ限リ之ヲ許ス

宣誓ノ反對要求ハ宣誓ヲ要求セラレタル當事者カ自己ノ行爲又ハ實驗ニ付テ宣誓ノ義務ヲ有スルモ相手方カ自己ノ行爲又ハ實驗ニ付キ宣誓ノ義務ヲ有セサルトキハ之ヲ許サス

第四百十四條　宣誓ハ當事者ニ對シテノミ之ヲ要求シ又ハ反對要求ヲ爲スコトヲ得第三者ニ對シテハ之ヲ要求シ又ハ反對要求ヲ爲スコトヲ得ス從參加人ニ對スル宣誓ノ要求又ハ反對要求ハ其參加人ヲ主タル當事者ノ共同訴訟人ト看做スヘキトキ（第六十六條）ニ限リ之ヲ爲

自第四百十條至第四百十四條

スコトヲ得

第四百十五條　裁判所ハ當事者カ其爲スヘキ宣誓ニ付キ同意シ且其宣誓カ事實ニ關係スルトキハ第四百十條第四百十三條第四百十四條ニ掲ケタル宣誓ノ要求及ヒ反對要求ニ付テノ制限ヲ適用ス可カラサルコトヲ命スルヲ得

第四百十六條　證據ノ申出ハ指定スヘキ事實ニ付キ相手方ニ宣誓ヲ要求スルコトヲ陳述シテ之ヲ爲ス

第四百十七條　宣誓ヲ要求セラレタル當事者ハ宣誓要求ニ關シ異議ヲ申立ルトキト雖モ其宣誓ヲ承諾スルカ又ハ反對ニ要求スルコトヲ陳述セサル可ラス

當事者カ陳述ヲ爲サス又ハ反對要求カ許サレサル場合ニ於テ條件ヲ付シテ宣誓ヲ承諾スルコトナクシテ反對ニ要求スルトキハ宣誓ヲ拒絶シタルモノト看做ス

第四百十八條　宣誓ノ要求又ハ承諾又ハ反對要求ヲナスモ當事者ノ雙方ニ於テ他ノ證據方法ヲ施用スルコトヲ禁止ス

他ノ證據方法ヲ施用スルトキハ宣誓ハ其證據方法ヲ以テスル證據ノ申出カ無効ナル場合ノ爲メニ之ヲ要求シタルモノト看做ス

第四百十九條　他ノ證據方法ヲ施用スルトキハ宣誓ヲ要求セラレタル當事者ハ其證據調ノ後又ハ其他ノ證據方法ヲ以テ完結スル後再度宣誓ヲ要求セラルヽニ非サレハ宣誓要求ニ付キ陳述スルノ義務ナシ

他ノ證據調ヲ爲ストキハ以前爲シタル陳述ハ之ヲ取消スコトヲ得

第四百二十條　宣誓要求ニ付キ陳述ヲ爲サヽルトキハ當事者カ裁判所ヨリ宣誓ニ付キ陳述ス可キコトノ催告ヲ受ケタルトキニ限リ宣誓ヲ拒ミタルモノト看做スコトヲ得

第四百二十一條　反對ニ要求セラレタル宣誓ハ其承諾ノ旨ヲ明ニ陳述セサルモ證證者ハ之ヲ承諾シタルモノト看做ス

第四百二十二條　宣誓ノ反對要求ハ第四百十九條第二項ノ場合ヲ除クノ外宣誓義務者カ故意ニ宣誓義務者ニ背キタル爲ニ言渡シタル判決ノ確定シタルトキ又ハ相手方カ宣誓ヲ反對ニ要求シタル後始メテ右ノ言渡ヲ知リタルコトヲ證明スルトキハ之ヲ取消コトヲ得

第四百二十三條　宣誓ノ承諾又ハ反對要求ハ第四百十九條第二項及ヒ第四百二十二條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ取消コトヲ得ス

第四百二十四條　宣誓義務者ノ行爲ニ屬スル事實又ハ其實驗シタル事實ニ付テハ左ノ宣誓ヲ

爲ス

事實ハ眞實ナルコト又ハ眞實ナラサルコトヲ誓フ

其事實ヲ宣誓義務者ノ相手方ヨリ主張シ且其義務者ニ對シ塲合ノ事情ニ依リ其事實ノ眞實ナルコト又ハ眞實ナラサルコトヲ誓ハシムルヲ得サルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ左ノ宣誓ヲ爲スヘキコトヲ命スルヲ得

宣誓義務者ハ注意シテ調査及ヒ穿鑿ヲ爲シタル後其事實ノ眞實又ハ眞實ナラサルコトノ心證ヲ得タリシコトヲ誓フ

其他ノ事實ニ付テハ左ノ宣誓ヲ爲ス

宣誓義務者ハ注意シテ調査又ハ穿鑿ヲ爲シタル後其事實ノ眞實ナルコトノ心證ヲ得ルコト又ハ得サルコトヲ誓フ

第四百二十五條　宣誓ヲ爲スニ付テハ條件付終局判決ヲ以テ言渡ス

其宣誓ハ判決カ確定シタ後始メテ之ヲ爲ス

第四百二十六條　當事者カ宣誓ノ重要ナルコト若クハ誓文ニ付同意シタルトキ又ハ宣誓カ中間訴訟ノ完結ニ有用ナルトキハ證據決定ヲ以テ宣誓ヲ命スルコトヲ得

各個獨立ノ攻擊方法及ヒ防禦方法ニ關スル裁判カ宣誓ニ關係スルトキハ證據決定ヲ以テ宣誓ヲ命シ又ハ條件付中間判決ヲ以テ宣誓ヲ言渡スコトヲ得此言渡ヲ爲シタル塲合ニ於テハ其宣誓ハ訴訟ノ終局裁判ノ爲メ尙ホ之ヲ要スルコトヲ條件付終局判決ヲ以テ言渡シ其確定シタルトキニ限リ之ヲ爲ス

第四百二十七條　條件付判決ニハ宣誓文及ヒ宣誓ヲ爲シタルコト又爲サヽルコトノ結果ヲ事件ノ事情ニ於テ爲スコトヲ得ヘキ丈ケ詳細確定ス

此結果ハ終局判決ヲ以テ之ヲ言渡ス

第四百二十八條　宣誓ハ宣誓シタル事實ノ完全ナル證據トナル

反對ノ證據ハ宣誓ノ義務ニ背キタルカ爲メ確定判決ニ對シ不服ヲ申立ルコトヲ得ルト同一ノ要件ニ依ルトキニ限リ之ヲ許ス

第四百二十九條　相手方ヨリ爲ス宣誓ノ免除ハ宣誓ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

宣誓ノ拒絶ハ宣誓スヘキ事實ノ反對ヲ完全ニ證明シタリト看做スノ結果ヲ生ス

第四百三十條　宣誓義務者カ宣誓ノ爲メニ定メラレタル期日ニ出頭セサルトキハ申立ニ因リ闕席判決ヲ以テ宣誓ヲ拒絶シタルモノト看做スノ言渡ヲ爲ス

第四百三十一條　前主張ヲ取消シ又ハ以前爭ヒトナリタル事實ヲ自白スル宣誓義務者ハ既ニ條件付判決ヲ以テ宣誓義務ヲ負擔セシメラレタルトキト雖ドモ有限ノ宣誓ヲ爲スコトヲ申入ルヽコトヲ得宣誓文ニ載セタル瑣細ノ事情モ亦之ヲ更正スルコトヲ得

第四百三十二條　條件付判決ヲ以テ宣誓義務ヲ負擔セシメラレタル場合ニ於テ其判決確定後ト雖ドモ宣誓義務者カ故意ニ宣誓義務ニ背キタルニ因リ言渡サレタル判決ノ確定シタルトキ又ハ相手方カ宣誓ノ要求又ハ反對要求ヲ爲シタル後始メテ其言渡ヲ知リタルコトヲ疏明スルトキハ宣誓ノ要求又ハ反對要求ヲ取消コトヲ得

第四百三十三條　宣誓義務者カ死亡スルトキ又ハ宣誓義務者カ宣誓不能トナルトキ又ハ宣誓義務者カ法律上代理人タルコトヲ止ルトキハ當事者雙方ハ宣誓要求前ニ有スル總テノ權利ヲ其擧證ニ付テ行用スルコトヲ得

宣誓義務者カ故意ニ宣誓ノ義務ニ背キタルカ爲メ有罪ノ言渡ヲ受ケタルニ因リ宣誓ノ要求又ハ反對要求ヲ取消トキニモ亦前項ニ同シ

條件付判決ヲ以テ宣誓ノ義務ヲ負擔セシメタルトキハ其判決ヲ廢棄シ更ニ事件ニ付テ言渡ヲ爲ス

第四百三十四條　共同訴訟人總員ニ對シ合一スルニ非サレハ確定スルコトヲ得サル權利關係ニ影響アル事實ニ付テノ宣誓ハ共同訴訟人ノ各員ニ宣誓ノ要求又ハ反對要求ヲ爲スコトヲ許ス可ラサルトキニ限リ其總員ニ對シ之ヲ要求シ又ハ反對ニ要求スルコトヲ要ス各場合ニ於テハ宣誓ノ要求又ハ反對要求ヲ爲ス爲メ共同訴訟人總員ノ同意ノ陳述アルコトヲ要ス宣誓ヲ承諾スルニ付テハ宣誓ノ要求ヲ受ケタル共同訴訟人ニ限リ陳述ヲ爲ス

共同訴訟人ノ總員又ハ二三名ノ爲スヘキ宣誓ヲ其一名又ハ數名カ拒絶スルトキ又ハ拒絶シタリト看做サヽル可ラサルトキ又ハ共同訴訟人一部ノ爲スヘキ宣誓ヲ宣誓ノ義務者總員カ拒絶スルトキ又ハ拒絶シタリト看做スヘキトキハ裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ宣誓要求ニ依リ證據ヲ申出テタル主張ヲ眞實ナリト認ムヘキヤヲ裁判ス共同訴訟人ノ各員カ宣誓ヲ爲サスト陳述スルトキハ裁判所ニ於テ宣誓ヲ重要ナラスト看做ストキニ限リ其他ノ共同訴訟人ニ對シテハ宣誓ヲ命スルコトヲ得ス又ハ爲サシムルコトヲ得ス

第四百三十五條　當事者ノ一方カ訴訟能力ヲ有セサルトキハ宣誓ノ要求又ハ反對要求ハ法律上代理人ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ許ス但代理セラレタル當事者カ自ラ訴訟ヲ爲セシトキ又ハ其代理人自ラ當事者ナリシトキハ其要求若クハ反對要求ヲ諾スヘキトキニ限リ十六

歳ヲ超ヘタル未成年者又ハ浪費者ハ其行爲ニ係ル事實又ハ實驗シタル事實ニ付キ宣誓ヲ要求セラレ又ハ反對ニ要求セラルヽコトヲ得但裁判所カ相手方ノ申立ニ因リ場合ノ事情ニ從ヒ之ヲ許スヘシト言渡ストキニ限ル

第四百三十六條　法律上代理人アルトキハ亦第四百三十四條ノ規定ヲ準用ス宣誓カ代理人ノ二三名又ハ一名ノミヲ行爲又ハ實驗ニ關スルトキハ其ノ他ノ者ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百三十七條　辯論ノ結果及ヒ證據調ヲ爲シタルトキ其結果カ證明スヘキ事實ノ眞否ニ付キ裁判所ノ心證ヲ生スルニ十分ナラサルトキハ裁判所ハ係爭事實ニ付キ當事者ノ一方ニ宣誓ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四百三十八條　判事ノ命スル宣誓ハ共同訴訟人ノ總員又ハ法律上代理人ノ總員又ハ其二三名又ハ一名ニ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四百三十九條　第四百二十二條乃至第四百三十三條及ヒ第四百三十五條ノ規定ハ判事ノ命スル宣誓ニモ亦之ヲ準用ス宣誓ノ義務ノ故意ニ宣誓ノ義務ニ背キタルニ因リ言渡サレタル判決ノ確定シタルトキハ判事ノ命スル宣誓ヲ負擔スル前ニ於テ相手方カ既ニ其言渡ヲ知リタルトキト雖ヒ相手方ハ判事ノ命スル宣誓取消ノ申立ヲ爲スノ權アリ

判事ノ命スル宣誓ハ條件付判決ヲ以テ之ヲ負擔セシム

第十一節　宣誓ノ手續

第四百四十條　宣誓ハ宣誓義務者自ヲ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四十一條　受訴裁判所ハ宣誓義務者カ受訴裁判所ニ出頭スルニ差支アルトキ又ハ受訴裁判所所在地ヨリ遠隔ノ地ニ現在スルトキハ其裁判所部員ノ一名ノ面前又ハ他ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘキコトヲ命スルヲ得

各邦君主及ヒ其家族並ニ〔ホーヘンツオルレルン〕公家ノ家族ノ宣誓ハ其住居ニ於テ受訴裁判所ノ部員ノ面前又ハ其他ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第四百四十二條　宣誓ヲ爲ス前裁判官ハ宣誓義務者ニ相當ノ方法ヲ以テ宣誓ノ効用ヲ指示ス

第四百四十三條　宣誓ハ左ノ誓詞ヲ以テ始マル

予ハ不測ノ威力ト無限ノ靈智トヲ具備スル天帝ニ誓フ

又左ノ語ヲ以テ終ハル

天帝必ス我ヲ助ケン

第四百四十四條　宣誓ハ誓文ヲ揭ル誓式ヲ尾誦シ又ハ朗讀シテ之ヲ爲ス宣誓者ハ誓ヲ爲スト

キ右手ヲ擧ク

誓文ノ範圍大ナルトキハ誓式中ノ誓文ヲ讀聞セ且之ヲ指示スルヲ以テ足ル

各邦君主及ヒ其家族幷ニ「ホーヘンツオルレルン」公家ノ家族ハ誓文ヲ掲ル誓式ニ署名シテ宣誓ヲ爲ス

第四百四十五條　文字ヲ書スルコトヲ得ル啞者ハ誓文ヲ掲ル誓式ヲ謄寫シ且署名シテ宣誓ヲ爲ス

文字ヲ書スルコトヲ得サル啞者ハ通事ノ助ニ依リ符徴ヲ以テ宣誓ヲ爲ス

第四百四十六條　法律上此宣誓ニ代ヘ或ル誓式ヲ用ヰルコトヲ許サレタル教會員カ其會ノ誓式ニ依リ供述ヲナストキハ之ヲ宣誓ト同視ス

第六編　婚姻事件及禁治產事件

第一章　婚姻事件ノ訴訟手續

第五百六十八條　婚姻ノ離別無効若クハ不成立又ハ婚姻上生活ノ回復ヲ目的トスル訴訟（婚姻事件）ニ付テハ夫カ其普通裁判籍ヲ有スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス（婚、第一條）

婦ヲ棄去シテ外國ノミニ住居ヲ有スル夫ニ對シテハ其婦ヨリ獨逸國內ニ於ケル其夫ノ最終住所ノ地方裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得但被告カ原告ヲ棄去セシ時獨逸人タリシトキニ限ル

第五百六十九條　婚姻事件ニハ檢事局カ參與スルノ權アリ

檢事ハ判決裁判所ニ於ケル幷ニ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於ケル辯論ニ立會フコトヲ得檢事ニハ職權ヲ以テ總テノ期日ヲ通知ス（婚、第二條）

檢事ハ言渡スヘキ裁判ニ付キ意見ヲ述ルコトヲ得且婚姻ノ維持ニ關スルトキニ限リ新ナル事實及證據方法ヲ提出スルコトヲ得

法廷調書ニハ檢事ノ氏名及ヒ檢事ノ爲シタル申立ヲ記載ス

第五百七十條　裁判長ハ和解試ミニ付テノ以下數條ノ規定ヲ遵奉シ了リタルトキ始メテ離婚

ノ訴又ハ婚姻上生活ノ回復ノ訴ニ付テノ口頭辯論ノ期日ヲ定ムルコトヲ許ス

第五百七十一條　原告ハ夫ノ普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ和解期日ノ指定ヲ申立テ其期日ニ被告ヲ喚出ス呼出狀ノ送達ニ依リ時效ヲ中斷ス

第五百七十二條　當事者ハ和解期日ニ自身出頭スルコトヲ要ス輔佐人ハ之ヲ斥ルコトヲ得

和解期日ニ原告出頭セス又ハ當事者雙方出頭セサルトキハ呼出狀ハ其効力ヲ失フ原告出頭スルモ被告出頭セサルトキハ和解試ミハ不調トナリタルモノト看做ス

第五百七十三條　和解試ミハ被告ノ現在地分明ナラス又ハ外國ニ在ルトキ又ハ和解試ミニ對シ原告ノ過失ニ出テサル除去シ難キ其他ノ障害アルトキ又ハ和解試ミノ効ナキコトヲ確カニ豫知スヘキトキハ之ヲ要セス

其要件ノ存否ニ付テハ地方裁判所ノ裁判長ハ豫メ被告ヲ審訊スルコトナクシテ裁判ス

第五百七十四條　判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ訴ニ提出シタル以外ノ訴ノ原因ヲ主張スルコトヲ得（婚、第四條）

新ナル供述及ヒ反訴ノ提起ハ和解試ミニ關係ナシ

第五百七十五條　婚姻上生活ノ回復ノ訴、離婚ノ訴及ヒ無効ノ訴ハ之ヲ併合スルコトヲ得

前項ニ記載シタル訴ト他ノ訴トノ併合及ヒ他ノ種類ノ反訴ノ提起ハ之ヲ許サス（婚、第三條）

第五百七十六條　離婚ノ訴又ハ無効ノ訴ト共ニ却下セラレタル原告ハ前訴訟ニ於テ又ハ訴ノ併合ニ因リ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實ヲ獨立ノ訴ノ原因トシテ更ニ主張スルコトヲ得ス被告ニ在リテハ反訴ノ原因ト爲スコトヲ得ヘカリシ事實ニ付テモ亦同シ（婚、第五條）

第五百七十七條　事實ニ付キ又ハ證書ノ正否ニ付テ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ拒絶シタル結果ニ關スル規定當事者ニ於テ證人及ヒ鑑定人ノ宣誓ヲ拋棄スルコトニ關スル規定幷ニ認諾及ヒ裁判上自白ノ効力及宣誓ノ免除ニ關スル規定ハ之ヲ適用セス（婚、第六條）

宣誓要求及ヒ相手方ニ證書ノ提出ヲ命スル申立ハ婚姻ノ離別無效又ハ不成立ノ理由ト爲ルヘキ事實ニ關スルトキニ限リ之ヲ許サス

第五百七十八條　被告カ訴ノ口頭辯論ノ爲メ定メタル期日ニ出頭セサルトキハ原告ノ申立ニ因リ定ムル可キ新期日ニ於テ始メテ辯論スルコトヲ得

被告ノ在廷セサルトキニ期日ヲ定ムルトキハ各期日ニ之ヲ呼出ス此規定ハ被告カ公示送達ヲ以テ呼出サルヽモ出頭セサリシトキハ之ヲ適用ス

被告ニ對スル闕席判決ハ被告カ判事ノ命スル宣誓ヲ爲ス爲メ定メタル期日ニ出頭セサル場合ニ限リ之ヲ言渡スコトヲ得(婚、第七條)

本件ノ規定ハ反訴被告ニモ亦之ヲ適用ス

第五百七十九條　裁判所ハ當事者一方ニ自身出頭ヲ命シ且其一方又ハ相手方若クハ檢事ノ主張シタル事實ニ付キ之ヲ審訊スルコトヲ得

其審訊セラルヘキ當事者カ受訴裁判所ニ出頭スルニ差支アルトキ又ハ其裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事若クハ受託判事ニ依リ審訊ヲ爲スコトヲ得

出頭セサル當事者ニ對シテハ審訊期日ニ出頭セサル證人ニ對スル如ク處分ス拘留ハ之ヲ言渡スコトヲ許サス(婚、第八條)

第五百八十條　裁判所ニ於テ當事者雙方ノ和解調ハサルニアラサルヘシト認ルトキハ職權ヲ以テ離婚ノ訴又ハ婚姻上生活ノ回復ノ訴ニ關スル訴訟手續ノ中止ヲ命スルコトヲ得

訴訟中ノ中止ハ一回ニシテ一ケ年間ニ限リ右規定ニ依リ命スルコトヲ得(婚、第九條)

其中止ハ姦通ノ罪ニ基キ離婚ヲ申立テタルトキハ之ヲ許サス

第五百八十一條　婚姻ヲ維持スル爲メ裁判所ハ當事者ノ提出セサリシ事實ヲ斟酌シ且職權ヲ以テ證據調ヲ命スルコトヲ得當事者ハ裁判前之ヲ審訊ス(婚、第十條)

第五百八十二條　婚姻ノ離別、無效又ハ不成立ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ當事者ニ送達ス(婚、第十一條)

第五百八十三條　第二百五十二條ノ規定ハ控訴審ニ適用セス

第五百八十四條　假處分ノ場合殊ニ配偶者ノ一方カ一時ノ離別ノ許可ヲ申立テ及ヒ養料ノ支拂ヲ申立ル場合ニ於テハ第八百十五條乃至第八百二十二條ノ規定ヲ適用ス(婚、第十三條)

第五百八十五條　不成立ノ訴ニ付テハ以上諸條ニ揭ケタル特別ノ規定ヲ適用ス

第五百八十六條　訴ハ檢事局ヨリモ亦之ヲ提起スルコトヲ得配偶者ノ一方又ハ第三者カ訴ヲ提起スル權利ノ程度ハ民法ノ規定ニ依テ定マル(婚、第十五條)

檢事又ハ第三者ノ提起シタル訴ハ配偶者双方ニ對シテ之ヲ爲ス配偶者ノ一方ノ提起シタル訴ハ他ノ一方ニ對シテ之ヲ爲ス(婚、第十六條)

第五百八十七條　不成立ノ訴ト他ノ訴トハ之ヲ併合スルコトヲ得ス

反訴ハ不成立ノ訴ナルトキニ限リ之ヲ許ス

第五百八十八條　配偶者ノ生存スル間ハ職權ヲ以テモ亦主張スルコトヲ得ルノ理由ニ因レル

婚姻ノ不成立ハ不成立ノ訴ニ基クトキニ限リ之ヲ言渡スコトヲ得

第五百八十九條　檢事ハ訴ヲ提起セサリシトキト雖モ訴訟ヲ遂行シ殊ニ獨立シテ申立ヲ爲シ及ヒ上訴ヲ爲スコトヲ得（婚、第十七條）

第五百九十條　檢事又ハ當事者カ上訴ヲ爲ストキハ檢事ニ在リテハ當事者ヲ上訴訴訟手續ニ付テノ相手方ト看做シ當事者ニ在リテハ其他ノ當事者及ヒ檢事ヲ上訴訴訟手續ニ付テノ相手方ト看做ス（婚、第十八條）

第五百九十一條　當事者タル檢事カ敗訴スル場合ニ於テハ國庫ハ第一編第二章第五節ノ規定ニ從ヒ勝訴者タル相手方ニ生シタル費用ヲ辨濟スヘキコトヲ言渡ス（婚、第十九條）

第五百九十二條　本章ニ謂ヘル離婚ノ訴トハ婚姻ヲ解除スル訴又ハ一時寢食ヲ分離スル訴ヲ謂ヒ無效ノ訴トハ職權ヲ以テ主張スルコトヲ得サル理由ニ因リ婚姻ニ對シ不服ヲ申立ツル訴ヲ謂ヒ不成立ノ訴トハ職權ヲ以テモ亦主張スルコトヲ得ル理由ニ因リ婚姻ニ對シ不服ヲ申立ツル訴ヲ謂フ

第二章　禁治產事件ノ訴訟手續

第五百九十三條　精神病者（瘋癲白痴等）タルノ言渡ハ區裁判所ノ決定ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

其決定ハ申立アルトキニ限リ之ヲ言渡ス

第五百九十四條　禁治產者カ普通ノ裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス（禁、第二十條）

外國ニ於テノミ住所ヲ有スル獨逸人ニ對シテハ獨逸國內最終ノ住所ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條　申立ハ禁治產者ノ配偶者血族又ハ後見人之ヲ爲スコトヲ得婦ニ對シテハ其夫ニ限リ父權又ハ後見ノ下ニ立ツ人ニ對シテハ其父又ハ後見人ニ限リ其申立ヲ爲スコトヲ得倘ホ其他ノ者カ其申立ヲ爲スコトヲ得ル民法ノ規定ハ之カ爲メ變更ヲ受クルコトナシ（民、八、第二百二十三條參照）

總テノ場合ニ於テ檢事亦其所屬地方裁判所ニ其申立ヲ爲スノ權アリ（禁、第二十三條第三項）

第五百九十六條　申立ハ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ裁判所書記ノ調書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其申立ニハ其理由タル事實及ヒ證據方法ノ表示ヲ揭ク可シ（禁、第二十一條）

第五百九十七條　裁判所ハ其申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ヲ使用シ職權ヲ以テ精神ノ狀態ヲ確定スルニ必要ナル探知ヲ爲シ且適當トスル證據方法ヲ調査ス

裁判所ハ訴訟手續ノ開始前、診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

檢事ハ總テノ場合ニ於テ申立ヲ爲シ訴訟手續ヲ追行スルコトヲ得

證人及ヒ鑑定人ノ訊問及ヒ宣誓ニ付テハ第二編第一章第七節及ヒ第八節ノ規定ヲ適用ス第三百五十五條ノ場合ニ於ケル拘留ノ命ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十八條　禁治產者ハ一人又ハ數人ノ鑑定人ノ立會ヲ以テ訊問セラル

其訊問ハ受託判事ヲ以テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

其訊問ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ實施シ難ク又ハ裁判ノ爲メニ必要ナラス又ハ禁治產者ノ健康ノ爲メニ有害ナルトキハ之ヲ爲サヽルコトヲ得（禁、第二十三條）

第五百九十九條　禁治產ハ裁判所カ禁治產者ノ精神ノ狀態ニ付キ一人又ハ數人ノ鑑定人ヲ訊問シタル後ニアラサレハ之ヲ言渡スコトヲ許サス（禁、第二十四條）

第六百條　裁判所カ禁治產者ノ身體又ハ財產ニ付テノ監護ヲ命スルコトヲ必要ナリトスルトキハ直ニ其命ヲ發スル爲メ後見官廳ニ通知ヲ爲ス（禁、第二十五條）

第六百一條　訴訟手續ノ費用ハ治產ヲ禁スルトキハ其禁治產者之ヲ負擔シ其他ノ場合ニ於テハ國庫之ヲ負擔ス

裁判所ノ意見ニ從ヒ第五百九十五條第一項ニ記載シタル申立人ノ一名カ申立ヲ爲スノ際過失アリトスルトキニ限リ之ニ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得（禁、第二十六條）

第六百二條　禁治產ニ付キ爲シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人及ヒ檢事ニ之ヲ送達ス（禁、第二十七條）

第六百三條　禁治產ヲ宣言スル決定ハ職權ヲ以テ後見官廳ニ之ヲ通知ス且法律上ノ後見人アルトキハ又之ニモ通知ス（禁、第二十七條）

禁治產ハ其決定ヲ後見官廳ニ通知スルト同時ニ其効力ヲ生ス

第六百四條　禁治產ヲ却下スル決定ニ對シテハ其申立人及ヒ檢事ニ即時抗告ヲ爲ス權アリ

抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ第五百九十七條ノ規定ヲ準用ス（禁、第二十九條）

第六百五條　禁治產ヲ宣言スル決定ニ對シテハ一箇月ノ期間內ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

其訴ヲ起スノ權利ハ禁治產者本人其後見人及ヒ第五百九十五條ニ記載シタル人ニ屬ス

其期間ハ禁治產者ニ對シテハ禁治產ヲ知リタル日ヲ以テ始マリ其他ノ者ニ對シテハ後見人ノ選定ヲ以テ始マリ又法律上ノ後見アル場合ニ於テハ法律上ノ後見人ニ決定ヲ通知スルヲ以テ始マル（禁、第三十條）

第六百六條　訴ニ付テハ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス（禁、第三十一條）

第六百七條　訴ハ檢事ニ對シ之ヲ爲ス

檢事カ訴ヲ起ストキハ禁治產者ノ代理人タル後見人ニ對シ之ヲ爲ス

第五百九十五條第一項ニ記載シタル者ノ一人カ禁治產ヲ申立テタルトキハ此者ニ訴ヲ通知シ口頭辯論ノ期日ニ呼出ス此者カ參加スル場合ニ於テハ之ヲ第五十九條ノ所謂主タル當事者ノ共同訴訟人ト看做ス

第六百八條　禁治產ニ對シ不服ヲ申立ツル訴ト他ノ訴トハ併合スルコトヲ得ス

反訴ハ之ヲ許サス（禁、第三十二條）

第六百九條　禁治產者カ訴ヲ提起セント欲スルトキハ其申立ニ因リ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ代理人トシテ之ヲ附添ハシム（禁、第三十三條）

第六百十條　當事者ハ區裁判所ニ於テ爲シタル事件調査ノ結果ヲ口頭辯論ノ際充分ニ演述セサル可ラス但不服ヲ受ケタル決定ノ當否ヲ調査スルニ必要ナルトキニ限ル

裁判長ハ其演述ノ不當又ハ不完全ナル場合ニ於テハ其更正又ハ補充ヲ爲サシメ必要ナル場合ニ於テハ辯論ノ再開ヲ爲ス

第六百十一條　第五百七十七條第五百七十八條ノ規定ハ之ヲ準用ス

當事者ノ宣誓ハ之ヲ禁ス

第六百十二條　第五百九十八條第五百九十九條ノ規定ハ不服申立ノ訴ニ付テノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ區裁判所ニ於テ爲シタル鑑定カ十分ナリト認ムルトキハ鑑定人ノ訊問ヲ爲サヽルコトヲ許ス（禁、第三十五條）

第六百十三條　不服申立ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治產ヲ宣言スル決定ヲ取消ス取消ハ判決ノ確定ヲ以テ效力ヲ生ス但申立ニ因リ禁治產者ノ身體又ハ財產ヲ保護スル爲メ第八百十五條乃至第八百二十二條ニ從ヒ假處分ヲ爲スコトヲ得

其取消ハ禁治産ヲ言渡シタル決定ヲ以テ禁治産者ノ從來ノ行爲ノ效力ヲ變更スルコトヲ得サル結果ヲ生ス其取消ハ選定セラレタル後見人又ハ法律上ノ後見人ノ從來ノ行爲ノ效力ニ影響ヲ及ホサス（禁、第三十六條）

第六百十四條　檢事敗訴スルトキハ勝訴者タル相手方ニ生シタル費用ハ第一編第二章第五節ノ規定ニ從ヒ國庫ニ於テ辨濟ス可キコトヲ言渡ス檢事カ訴ヲ起シタルトキハ國庫ハ總テノ場合ニ於テ訴訟ノ費用ヲ負擔ス（禁、第三十七條）

第六百十五條　受訴裁判所ハ事件ニ付キ言渡シタル各終局判決ヲ後見官廳及ヒ區裁判所ニ通知ス（禁、第三十八條）

第六百十六條　禁治産ノ解止ハ禁治産者又ハ其後見人又ハ檢事ノ申立ニ因リ區裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス（禁、第三十九條）

第六百十七條　禁治産ノ解止ハ禁治産者カ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス（禁、第二十條及ヒ第三十條）

禁治産者カ獨逸人ニシテ其住所ヲ外國ニ於テノミ有スルトキハ其申立ハ獨逸國內ニ於ケル最後ノ住所ノ區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得但其禁治産ヲ獨逸裁判所ニ於テ言渡シタルトキニ限ル

第六百十八條　訴訟手續ノ費用ハ禁治産者之ヲ負擔ス檢事其訴訟手續ヲ申立タルモ効ナキトキハ國庫之ヲ負擔ス（禁、第二十六條）

第六百十九條　禁治産ノ解止ニ付キ言渡ス可キ決定ハ職權ヲ以テ禁治産者幷ニ檢事ニ之ヲ送達ス（禁、第二十七條）

禁治産ヲ解止スル決定ニ對シテハ檢事ニ即時抗告ヲ許ス

確定シタル解止ハ後見官廳ニ之ヲ通知ス（禁、第二十七條）

第六百二十條　區裁判所カ解止ノ申立ヲ却下スルトキハ訴ヲ以テ解止ヲ申立ツルコトヲ得

禁治産者ニ付セラレタル後見人及ヒ檢事ハ右ノ訴ヲ起スノ權アリ

後見人カ訴ヲ起スコトヲ欲セサルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ代理人トシテ禁治産者ニ附添ハシムルコトヲ得

訴訟手續ニハ第六百六條乃至第六百十五條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十一條　浪費者タルノ言渡ハ區裁判所ノ決定ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得（民、八、

第二百三十二條參照）

其決定ハ申立アルトキニ限リ之ヲ言渡ス

其訴訟手續ニハ第五百九十四條第五百九十五條第一項第五百九十六條第五百九十七條第一項第四項及ヒ第六百四條ノ規定ヲ準用ス

檢事局ノ參與ハ之ヲ許サス

第六百二十二條　區裁判所ノ訴訟手續ノ費用ハ禁治産ヲ爲シタルトキハ禁治産者之ヲ負擔シ其他ノ場合ニ於テハ申立人之ヲ負擔ス（禁、第二十六條）

第六百二十三條　禁治産ニ付キ言渡スヘキ決定ハ職權ヲ以テ申立人及ヒ治産ヲ禁セラル可キ者ニ之ヲ送達ス

禁治産ヲ宣言スル決定ハ禁治産者ニ送達スルヲ以テ效力ヲ生ス此決定ハ職權ヲ以テ後見官廳ニ之ヲ通知ス（禁、第三十八條）

第六百二十四條　禁治産ヲ宣言スル決定ニ對シテハ一箇月ノ期間內ニ禁治産者ヨリ訴ヲ以テ不服ヲ申立ルコトヲ得

右期間ハ決定ヲ禁治産者ニ送達スルコトヲ以テ始マル

訴ハ禁治産ヲ申立テタル者ニ對シテ之ヲ爲ス其死亡シ又ハ其現在地分明ナラス又ハ外國ニ在ルトキハ檢事ニ對シテ之ヲ爲ス

訴訟手續ニハ第六百六條第六百八條第六百十條第六百十一條第六百十三條乃至第六百十五條ノ規定ヲ準用ス（禁、第三十條）

第六百二十五條　禁治産ノ解止ハ禁治産者又ハ其後見人ノ申立ニ因リ第六百十六條乃至第六百十九條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ爲ス

禁治産ヲ解止スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス（禁、第四十條）

第六百二十六條　區裁判所カ解止ノ申立ヲ却下スルトキハ解止ハ訴ヲ以テ之ヲ申立ツルコトヲ得

禁治産者ノ後見人ハ訴ヲ起ス權アリ後見人訴ヲ起スコトヲ欲セサルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ代理人トシテ禁治産者ニ附添ハシムルコトヲ得

訴ハ禁治産ヲ申立テタル者ニ對シテ之ヲ爲ス其死亡シ又ハ其現在地分明ナラス又ハ外國ニ在ルトキハ檢事ニ對シテ之ヲ爲ス

訴訟手續ニハ第六百六條第六百八條第六百十條第六百十一條第六百十四條第六百十五條ノ

自第六百二十七條至第七百八十三條

規定ヲ準用ス

第六百二十七條　浪費者ノ禁治産幷ニ其禁治産ノ解止ハ區裁判所之ヲ公告ス

第四章　明告宣誓及ヒ拘留

第七百八十條　明告宣誓ヲ爲サシムルニ付テハ債務者ノ獨逸國ニ於テ住所ヲ管轄スル區裁判所、其住所ナキトキハ其現在地ヲ管轄スル區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス

第七百八十一條　其手續ハ明告宣誓ヲ爲サシムル爲メニスル債務者ノ呼出ヲ以テ始マル

債務者其宣誓ヲ爲ス義務ヲ爭フトキハ裁判所ハ其異議ニ付キ判決ヲ以テ裁判ス宣誓ハ判決ノ確定シタル後始メテ之ヲ爲ス

第七百八十二條　明告宣誓ヲ爲ス爲メ定メタル期日ニ出頭セス又ハ理由ナクシテ宣誓ヲ爲スコトヲ拒ム債務者ニ對シ裁判所ハ申立ニ因リ宣誓ヲ强制スル爲メ拘留ヲ命ス

第七百八十三條　拘留セラレタル債務者ハ何時ニテモ拘留地ノ區裁判所ニ宣誓ヲ爲サンコトヲ申立ツルコトヲ得其申立ハ遲延ナク之ヲ認許セサル可ラス

其宣誓ヲ爲シタル後債務者ニハ拘留ヲ解放シ債權者ニハ其旨ヲ通知ス

第七百八十四條　第七百十一條ニ掲ケタル明告宣誓ヲ爲シタル債務者ハ後日財産ヲ取得シタルコトヲ疏明セフルヽトキニ限リ他ノ債權者ニ對シテモ亦再度宣誓ヲ爲ス義務アリ

第七百八十五條　拘留ハ左ニ掲クル者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ許サス

第一　會期中獨逸立法院ノ議員但其院カ拘留ノ執行ヲ承諾セサルトキニ限ル

第二　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル軍人軍屬

第三　船舶カ發航ノ準備ヲ爲シタルトキ〔發航準備〕ハ船長船員及其他總テ航海船ニ傭入レラレタル者

第七百八十六條　拘留ハ左ニ掲クル者ニ對シテハ之ヲ中斷ス

第一　會期間獨逸立法院ノ議員但其院カ釋放ヲ要求スルトキ

第二　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ニ召集セラルヽ軍人、軍屬但其關係ノ繼續間ニ限ル

第七百八十七條　拘留ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スル恐アル債務者ニ對シテハ其狀況ノ繼續間拘留ヲ執行スルコトヲ許サス

第七百八十八條　拘留ハ未決囚徒又ハ已決囚徒ト別異セル場所ニ於テ之ヲ執行ス

自第七百八十四條至第七百八十八條

第七百八十九條　裁判所ハ拘留ヲ命スル際拘留狀ヲ發ス拘留狀ニハ債權者債務者及ヒ拘留ノ理由ヲ記載ス

第七百九十條　債務者ノ拘留ハ執達吏之ヲ爲ス拘留狀ハ拘留ノ際債務者ニ之ヲ示シ且其求メニ因リテハ其謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第七百九十一條　執達吏ハ官吏僧侶又ハ公立教育ノ教師ヲ拘留スル前ニハ其官廳ニ通知ス其拘留ハ上班官廳カ債務者ノ職務上ノ代理ヲ任シタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス其官廳ハ遲延ナク必要ナル命ヲ發シ且其旨ヲ執達吏ニ通知スルノ義務アリ

第七百九十二條　債權者ハ賄料ト共ニ拘留ニ因リ生スル費用ヲ毎月前拂ニ爲サヽル可ラス少クモ一个月間ノ支拂ヲ爲サヽルトキハ債務者ヲ監獄ニ入ルヽコトヲ許サス遲クトモ其支拂ヲ爲シタル月ノ最終日ノ正午マテニ更ニ支拂ヲ爲サヽルトキハ債務者ハ職權ヲ以テ拘留ヲ解放セラル更ニ支拂ヲ爲サヽルニ因リ又ハ自己ノ承諾ナクシテ債權者ノ申立ニ因リ解放セラレタル債務者ニ對シテハ同一債權者ノ申立ニ因リ更ニ拘留スルコトヲ許サス

第七百九十三條　現役陸軍又ハ現役海軍ノ軍人軍屬ニ對シ拘留ヲ執行ス可キトキハ裁判所ハ其上班軍事官廳ニ其執行ヲ囑託ス

第七百九十四條　拘留ハ六个月ノ期間ヲ超過スルコトヲ許サス六个月ノ滿了後債務者ハ職權ヲ以テ拘留ヲ解放セラル

第七百九十五條　第七百十一條ニ揭ケタル明告宣誓ヲ拒ミタル爲メ六箇月ノ拘留ヲ執行セラレタル債務者ハ其後財產ヲ取得シタルコトヲ疏明セラルヽトキニ限リ他ノ債權者ノ申立ニ因リテモ亦拘留ヲ以テ再度其宣誓ヲ强制セラルヽコトアリ

明治廿五年十一月六日印刷
仝　年仝　月七日出版

堀田印刷

東京市神田區駿河臺鈴木町十六番地
著作者　高木豊三

仝京橋區山下町八番地
發行兼印刷者　宇津木信夫

仝　京橋區山下町
發兌元　時習社

版權所有

大賣捌

東京市神田區表神保町
八尾新助

同 京橋區銀坐四丁目
博聞社

同 神田區裏神保町
明法堂

大坂市東區本町四丁目
岡島眞七

22
175

禁電子式複写

036582-000-0

CZ-2785-01

日独民事訴訟法対比

高木　豊三／訳編

M25

BBR-0753